

2020 年度 医療科学部 IR 報告書

2019 年度 卒業生を対象とした
ディプロマ・ポリシー到達度調査
(就職先施設管理者による評価)



藤田医科大学 | R推進センター
医療科学部・保健衛生学部 | R分室

2020 年 12 月 28 日

藤田医科大学 I R 推進センター
医療科学部・保健衛生学部 IR 分室

2020 年度 医療科学部 I R 報告書

2019 年度 卒業生を対象とした
ディプロマ・ポリシー到達度調査
(就職先施設管理者による評価)

2020 年度 医療科学部 IR 報告書

「2019 年度 卒業生を対象とした ディプロマ・ポリシー到達度調査（就職先施設管理者による評価）」について

本学の教育目標を達成するため、教育および学生支援に関する諸データの統合分析と情報提供等を行い、本学の教育活動の充実発展に寄与することを目的として、藤田医科大学 I R（Institutional Research）推進センターが設置されています。今回、下部組織の医療科学部・保健衛生学部 I R 分室では、2019 年度の医療科学部の卒業生を対象とした医療科学部および各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価アンケートを行いましたので、その集計・分析結果について報告いたします。

2020 年 12 月 28 日

2020 年度 藤田医科大学 I R 推進センター 医療科学部・保健衛生学部 I R 分室
鈴木康司、山田晃司、石川浩章、南 一幸、小林正尚、日比谷 信、武藤晃一、
世古留美、大塚 圭、鈴木めぐみ、井上知重、島向健太

目 次

1. 分析結果の概要	1
2. ディプロマ・ポリシーについて	2
2-1) 学部ディプロマ・ポリシー	2
2-2) 学科ディプロマ・ポリシー	3
3. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度	6
3-1) アンケート調査方法	6
3-2) 調査概要、調査結果および到達度の分析	8
3-2-1) 学部全体としての分析	14
3-2-2) 学科間の比較	14
3-3) 各学科の調査結果および到達度の分析	17
3-3-1) 臨床検査学科	17
3-3-2) 放射線学科	19
3-3-3) 臨床工学科	21
3-3-4) 医療経営情報学科	23
4. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度	25
4-1) アンケート調査方法	25
4-2) 各学科の調査概要、調査結果および到達度の分析	25
4-2-1) 臨床検査学科	25
4-2-2) 放射線学科	29
4-2-3) 臨床工学科	32
4-2-4) 医療経営情報学科	35
5. 参考資料	39

1. 分析結果の概要

本学の教育のさらなる質の向上をめざし、2019年度医療科学部卒業生を採用いただいた医療施設の管理担当者に対して、本学科卒業生の医療科学部ディプロマ・ポリシーおよび各所属の学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度を評価していただくアンケート調査を実施し、集計・分析を行った。

157施設にアンケート調査を実施し、101施設から回答が得られた（回収率：64.3%）。医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先管理担当者の評価は、学部全体では、8項目の評価平均値はほぼ等しく、設問間で大きな相違は認めなかった。「責任感」、「専門知識」、「倫理教養」に関する項目が「最低水準は修得できている」以上であると高く評価された施設が多かったが、「論理思考」に関する項目の評価は他の項目より低かった。しかし、すべての設問で「最低水準は修得できている」より高く評価された施設がほとんどであった。また、学生の自己評価と比較すると、就職先管理担当者の評価は若干低い傾向にはあるが、大きな相違は認めなかった。学科間で比較すると、放射線学科科が他の学科より若干評価が高い傾向を得た。

各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価は、すべての学科で各ディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価は、「最低水準は修得できた」以上と回答した施設がほとんどであり、「ある程度修得したが、最低水準には届かない」以下と回答した施設はわずかであった。上述の傾向は、これまでの卒業生とほぼ同様であった。

以上の結果より、すべての学科において、学部および学科のディプロマ・ポリシーの達成度は十分に高く、医療科学部における教育は持続的に質を高く保てている状況であると判断できた。しかし、学部および各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の自己評価において、他の項目に比べて評価が低い項目がある。今後は自ら考え判断する力やグローバル化に関する要素をさらに強化するとともに、就職先のニーズに応えられるような教育内容の改善について検討を継続する必要がある。

2. ディプロマ・ポリシーについて

ディプロマ・ポリシー (Diploma Policy) とは、高等教育機関における卒業認定・学位授与に関する方針である。

藤田医科大学では学部レベルと学科レベルにて、学生が卒業する時に最低限身につけておくべき知識・理解・思考・判断・興味・関心・態度・技能・表現について具体的にまとめ、これをディプロマ・ポリシーとして設定し、公表している。ディプロマ・ポリシーは、本学の教育に関する質保証に資するために策定される。

2-1) 学部ディプロマ・ポリシー

医療科学部では、学部レベルのディプロマ・ポリシーを策定している。2019 年度卒業生に対する学部ディプロマ・ポリシーについて表 2-1 に示す。

表 2-1. 医療科学部ディプロマ・ポリシー

医療科学部は、臨床検査学、放射線学、臨床工学および医療経営情報学の専門的教育と研究の過程を経て、以下のような能力と素養を身につけた学生に対して学士の称号を与えます。

(知識・理解)

- 1) 医療人としての専門分野の学修内容について知識を修得している。
- 2) 人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけている。

(思考・判断)

- 3) 対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行えるようにそれぞれの専門領域において、必要な行動を示すことができる。
- 4) 国際的視野に立ち、論理的な思考ができ、疑問を解決する行動をとることができる。

(興味・関心)

- 5) 科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に対応し、生涯を通して自らを高めることができる。

(態度)

- 6) 患者および地域住民の健康の維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができる。

(技能・表現)

- 7) 専門的な技能を、患者もしくは医療従事者に対して適確かつ安全に適用、提供することができる。
 - 8) 患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができる。
-

2-2) 学科ディプロマ・ポリシー

医療科学部の各学科においてもディプロマ・ポリシーを設定し、教育の質保証に努めている。医療科学部の臨床検査学科のディプロマ・ポリシーを表2-2、放射線学科を表2-3、臨床工学科を表2-4、医療経営情報学科を表2-5に示す。

表2-2. 臨床検査学科ディプロマ・ポリシー

藤田医科大学医療科学部のディプロマ・ポリシーに基づき、臨床検査学科に4年以上在学し、授業科目より卒業要件を満たす単位を修得したうえ、卒業試験を合格した学生に『学士（保健衛生学）』の学位を授与します。

卒業試験は下記の能力が身につけていることを総合的に判断するものです。よって、臨床検査学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得していることになります。

- 1) 幅広い教養を身に付け、臨床検査を実践するために必要な知識と技能を有する。
 - 2) 生命の尊さを深く認識し、医療人として高い倫理感と強い責任感を有し、謙虚で誠実に医療を実践することができる。
 - 3) 医療職種の専門性および役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚を有し、患者中心の専門職連携を実践することができる。
 - 4) 地域医療の重要性を理解し、医学・臨床検査学を通じて地域社会と連携した医療・福祉を実践し、地域社会に貢献することができる。
 - 5) 常に進歩し続ける医学・臨床検査に関心を有し、生涯にわたり自ら成長することができる。
 - 6) 研究的探究心を失うことなく、常に向上心をもち、国際的視野を持ってグローバルに活躍する意志と積極性を有する。
 - 7) 科学的根拠に基づき、様々な医学・臨床検査学に関する問題や課題の解決に向けた思考や判断能力を有する。
-

表2-3. 放射線学科ディプロマ・ポリシー

藤田医科大学医療科学部のディプロマ・ポリシーに基づき、放射線学科に4年以上在学し、授業科目より卒業要件を満たす単位を修得したうえ、卒業試験を合格した学生に『学士（診療放射線技術学）』の学位を授与します。

卒業試験は以下の各項目について、その修得を総合的に判断するものです。したがって、放射線学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得していることになります。

- 1) 医療専門職に相応しい倫理観や他者を思いやる心遣い、および洗練された礼節を身につけている。
 - 2) チーム医療の一員として他の医療専門職と協働して医療を担う責任感と協調性、優れたコミュニケーション能力を有する。
 - 3) 診療放射線技師が担う診療画像検査業務および画像診断支援業務、放射線治療支援業務、放射線管理業務に幅広く対応できる高度な知識と技術を有する。
 - 4) 診療放射線技術科学に関する論理的な課題解決思考をもち、卓越した専門性を発揮して放射
-

線診療に携わることができる。

- 5) 医療機関のみならず、医療機器メーカー等の企業においても、質の高い製品やサービスの開発・供給に貢献できる能力を有する。
 - 6) 医学・医療科学に関する課題解決思考とリサーチマインドを兼ね備え、診療放射線技術科学のグローバルズムに対応できる国際的視野を有する。
-

表 2－4. 臨床工学科ディプロマ・ポリシー

藤田医科大学医療科学部のディプロマ・ポリシーに基づき、臨床工学科に 4 年以上在学し、授業科目により卒業要件を満たす単位を修得したうえ、卒業試験を合格した学生に『学士(臨床工学)』の学位を授与します。

卒業試験は、下記の能力が身につけていることを総合的に判断するものです。よって、臨床工学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得している事になります。

- 1) 臨床工学技術領域に従事するために必要な知識・技能を身につけている。
 - 2) 臨床工学技士国家試験に合格できる学力を身につけている。
 - 3) 安全な医療を行うために医学知識と工学知識を統合して判断できる。
 - 4) 国際社会のニーズにも対応し、生涯学び続ける姿勢を堅持できる。
 - 5) 高い倫理観を基盤とした豊かな人間性を身につけ、他の医療職と協働してチーム医療に貢献しようとする意思をもつことができる。
 - 6) 臨床工学技士に相応しい高い専門性と研究能力を備え、医学の進歩と地域・社会福祉の向上に寄与することを目的に、未来を指し示すリーダー力を備えている。
-

表 2－5. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー

藤田医科大学医療科学部のディプロマ・ポリシーに基づき、医療経営情報学科に 4 年以上在学し、授業科目より卒業要件を満たす単位を修得したうえ、卒業試験を合格した学生に『学士(医療経営情報学)』の学位を授与します。

卒業試験は下記の能力が身につけていることを総合的に判断するものです。よって、医療経営情報学科を卒業し、学位を授与された学生は以下の能力を修得していることになります。

- 1) 医療の質向上に貢献することができる情報分析能力やマネジメント能力を身につけている。
 - 2) 医療人としてふさわしい高い倫理観を身につけ、チーム医療の一員として問題解決にあたるためのコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につけている。
 - 3) 社会の変化や医療の進歩に対応して自らの専門性を発揮できるよう生涯学習を続ける意欲を身につけている。
 - 4) 医療経営情報学を修めた学生として、以下の専門性を身につけている。
 - (1) 診療報酬請求事務に関する知識と基礎的能力を身につけている。
 - (2) 診療情報管理士認定試験に合格できる知識と技能の水準に達している。
-

-
- (3) 医療情報技師能力検定試験に合格できる知識と技能の水準に達している。
 - (4) 経営・管理に関する知識を医療に応用する基礎的能力を身につけている。
-

3. 学部ディプロマ・ポリシーの到達度

3-1) アンケート調査方法

医療科学部の2019年度卒業生を対象として、医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度を、卒業生の就職先施設の管理者に評価して頂くアンケート調査を実施した（依頼文は「5. 参考資料」に掲載）。アンケート調査法はマークシート式の調査票へ記入する方式とし、医療科学部ディプロマ・ポリシーの各項目（計8項目）を設問として、それに対する就業者（2019年度本学部卒業生）全体としての到達度を6段階で評価して頂いた。すなわち1施設あたり1評価結果であり、複数の卒業生が就業した施設では、各設問は複数人の平均評価として回答頂くように説明した。

アンケート調査の実施方法（時期、対象等）について表3-1に示す。

アンケート調査項目（医療科学部ディプロマ・ポリシー）を表3-2、達成度の6段階の評定尺度を表3-3に示す。

表3-1. 就職先施設管理者へのアンケート調査の実施方法

臨床検査学科	時期：8月初旬～9月末 手順：郵送（返信用封筒にて回収）または直接依頼 調査施設数：62施設 郵送により調査依頼する施設：59施設 直接依頼する施設：第1教育病院（1部）、2教育病院（1部）、 治験・臨床研究支援センター（1部）
放射線学科	時期：8月初旬～9月末 手順：郵送（返信用封筒にて回収）または直接依頼 調査施設数：46施設 郵送により調査依頼する施設：43施設 直接依頼する施設：第1教育病院（1部）、第2教育病院（1部）、 第4教育病院（1部）
臨床工学科	時期：8月初旬～9月末 手順：郵送（返信用封筒にて回収）または直接依頼 調査施設数：35施設 郵送により調査依頼する施設：33施設 直接依頼する施設：第1教育病院（1部）、2教育病院（1部）
医療経営情報学科	時期：8月初旬～9月末 手順：郵送（返信用封筒にて回収）または直接依頼 調査施設数：14施設 郵送により調査依頼する施設：12施設 直接依頼する施設：第1教育病院（1部）、4教育病院（1部）

表 3－2. アンケート調査の設問項目（医療科学部ディプロマ・ポリシー）

設問 1 (専門知識)	医療人としての専門分野の学修内容について知識を修得していますか。
設問 2 (倫理教養)	人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけていますか。
設問 3 (科学行動)	対象となる人の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価するための情報の統合と適確な判断を行えるようにそれぞれの専門領域において、必要な行動を示すことができるようになっていきますか。
設問 4 (論理思考)	国際的視野に立ち、論理的な思考ができ、疑問を解決する行動をとることができるようになっていきますか。
設問 5 (生涯学習)	科学の進歩および社会の医療ニーズの変化に対応し、生涯を通して自らを高めることができるようになっていきますか。
設問 6 (責任感)	患者および地域住民の健康の維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができるようになっていきますか。
設問 7 (専門技能)	専門的な技能を、患者もしくは医療従事者に対して適確かつ安全に適用、提供することができるようになっていきますか。
設問 8 (コミュ力)	患者・家族や保健・医療・福祉チームのメンバーと良好なコミュニケーションをとり、チームの一員として役割を果たすことができるようになっていきますか。

表 3－3. アンケート調査に用いた到達度の評定尺度（6 段階）

6：完全に修得できている
5：概ね修得できている
4：最低水準は修得できている
3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない
2：十分に修得できていない
1：全く修得できていない

3-2) 調査概要、調査結果および到達度の分析

2019 年度医療科学部卒業生を対象とした医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、アンケート調査票の回収状況を表 3-4 に示す。

表 3-4. アンケート調査票の回収状況（学部ディプロマ・ポリシー）

学科	回収率		回収率 (昨年度)
臨床検査学科	66.1%	(41/62 施設)	65.1%
放射線学科	56.5%	(26/46 施設)	58.6%
臨床工学科	71.4%	(25/35 施設)	67.5%
医療経営情報学科	64.3%	(9/14 施設)	72.0%
計	64.3%	(101/157 施設・部)	65.6%

アンケート調査の回答の度数分布を表 3-5 に示す。

学部全体としての各設問に対する評定尺度毎の回答結果のヒストグラムを図 3-1 に示す。

各設問に対する回答の割合を図 3-2 に示す。

表 3－5. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価アンケート結果 度数分布

設問1 (専門知識)	学部	検査	放射	臨工	医経
6	3	0	3	0	0
5	50	22	13	12	3
4	35	13	8	10	4
3	10	4	2	3	1
2	2	2	0	0	0
1	1	0	0	0	1
n	101	41	26	25	9

設問2 (倫理教養)	学部	検査	放射	臨工	医経
6	3	0	2	1	0
5	40	17	11	10	2
4	47	20	12	10	5
3	7	1	1	3	2
2	3	2	0	1	0
1	1	1	0	0	0
n	101	41	26	25	9

設問3 (科学行動)	学部	検査	放射	臨工	医経
6	2	0	1	1	0
5	30	13	8	7	2
4	50	21	15	11	3
3	12	5	1	4	2
2	6	2	1	2	1
1	1	0	0	0	1
n	101	41	26	25	9

設問4 (論理思考)	学部	検査	放射	臨工	医経
6	2	0	1	1	0
5	18	4	8	5	1
4	52	27	13	8	4
3	19	7	3	7	2
2	7	1	1	3	2
1	2	2	0	0	0
n	100	41	26	24	9

設問5 (生涯学習)	学部	検査	放射	臨工	医経
6	2	0	1	1	0
5	35	13	11	9	2
4	45	20	12	9	4
3	12	6	1	3	2
2	6	2	1	2	1
1	1	0	0	1	0
n	101	41	26	25	9

設問6 (責任感)	学部	検査	放射	臨工	医経
6	5	0	4	1	0
5	42	17	13	9	3
4	44	18	8	13	5
3	8	4	1	2	1
2	2	2	0	0	0
1	0	0	0	0	0
n	101	41	26	25	9

設問7 (専門技能)	学部	検査	放射	臨工	医経
6	7	2	4	1	0
5	29	13	5	7	4
4	48	19	15	12	2
3	12	3	2	5	2
2	4	4	0	0	0
1	1	0	0	0	1
n	101	41	26	25	9

設問8 (コミュカ)	学部	検査	放射	臨工	医経
6	9	2	3	4	0
5	39	19	12	4	4
4	38	12	9	13	4
3	10	4	2	3	1
2	5	4	0	1	0
1	0	0	0	0	0
n	101	41	26	25	9

※ 回収されたアンケート調査票のうち、臨床工学科の1施設において「設問4」が未回答であった。

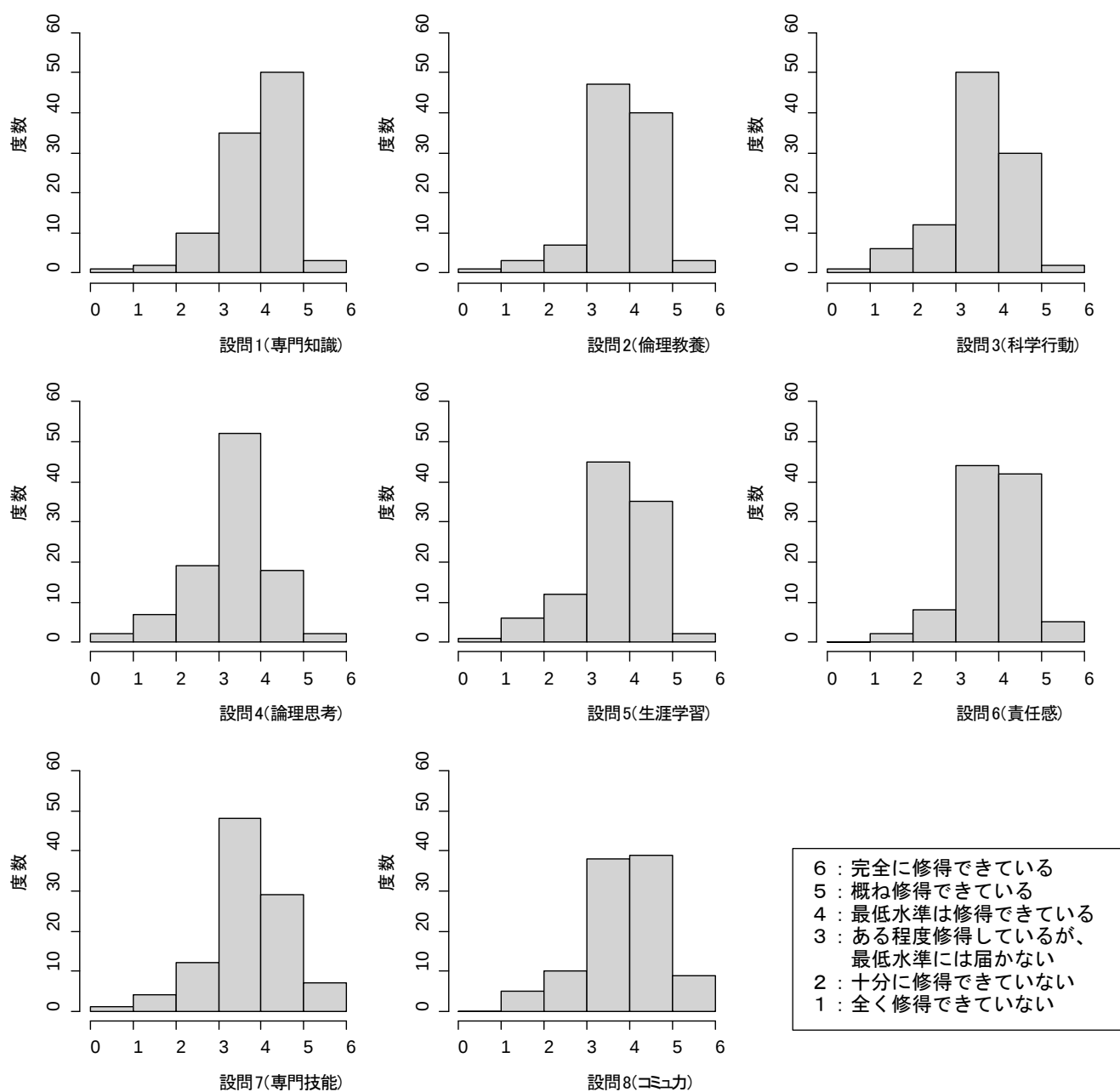


図3－1. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 学部全体の回答分布

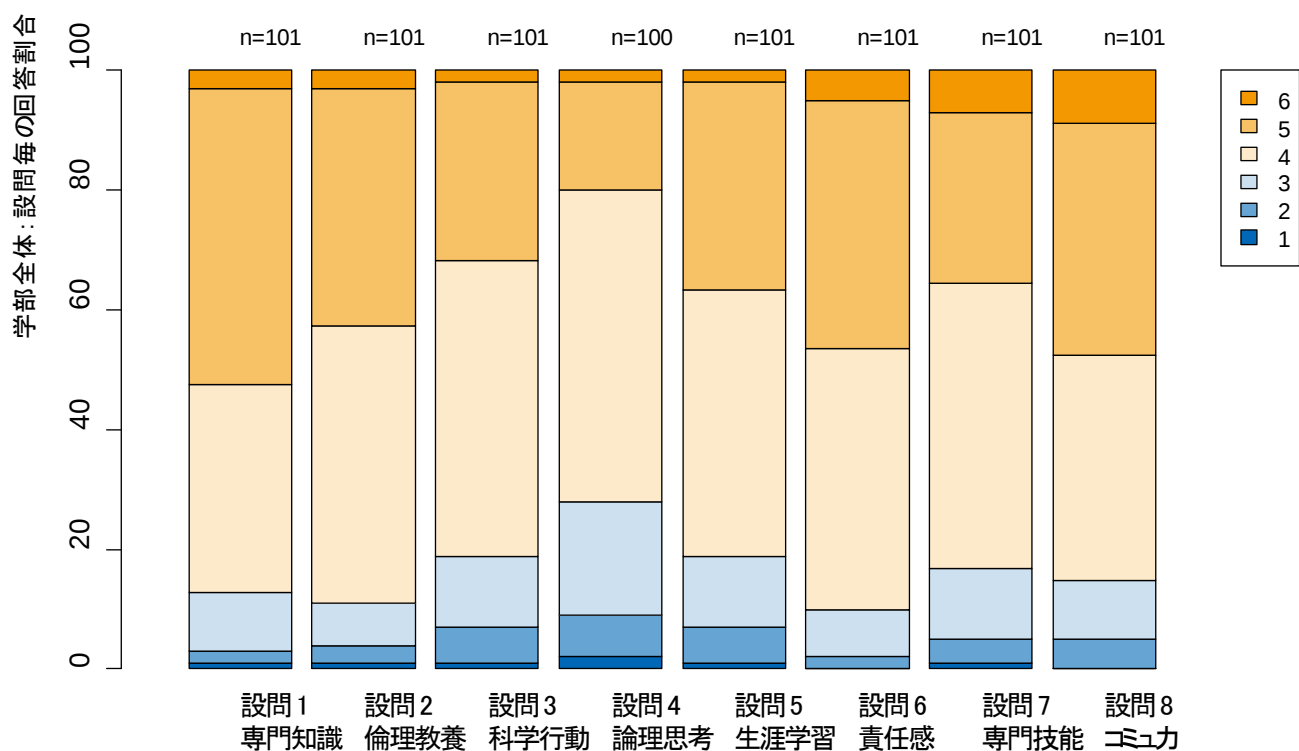


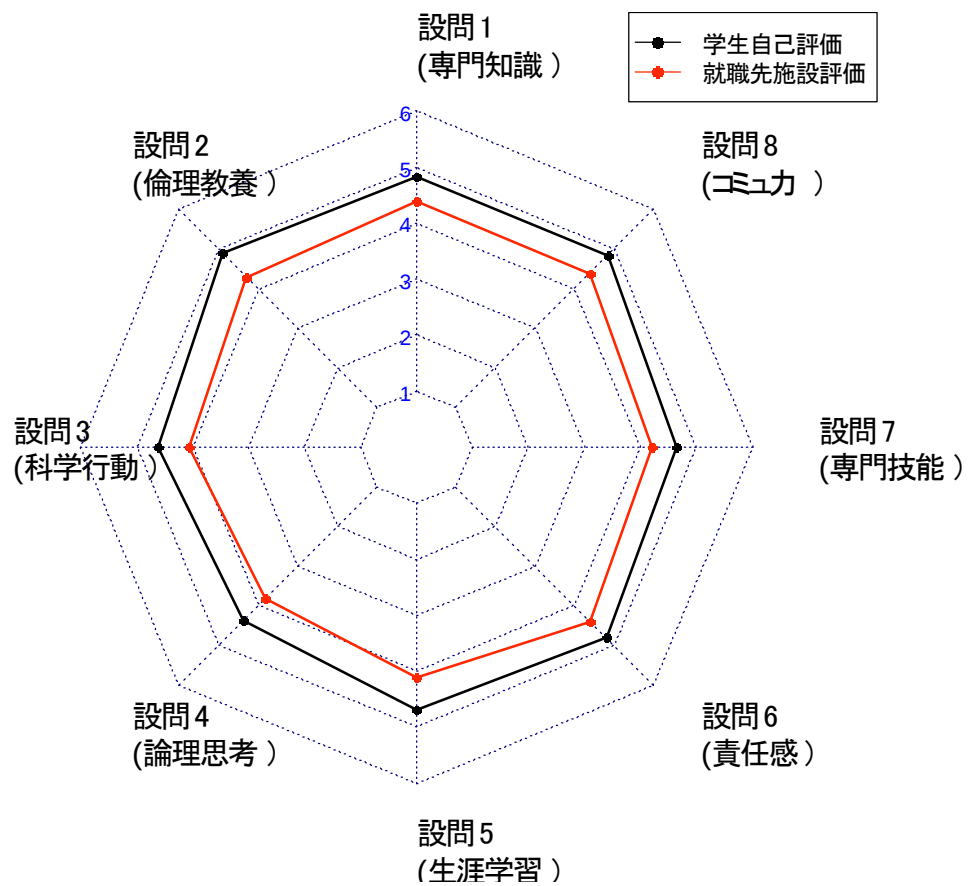
図3－2. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 設問毎の回答割合

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較した。回答結果について、学部全体および学科ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表3－6に示す。

設問1～設問8について、学部全体の回答の平均値をレーダーチャートとして図3－3に示す。設問1～設問8は、医療科学部・保健衛生学部 IR 分室より2020年6月2日に報告された「2020年度医療科学部 IR 報告書 —2019年度卒業生を対象としたディプロマ・ポリシー到達度調査（学生自己評価）—」（以下、学生自己評価調査）における学生の自己評価による学部ディプロマ・ポリシーのアンケート調査の設問と同様である。そこで、学生自己評価調査の「表3－4. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度自己評価結果 基本統計量」より得た各設問の学部全体の平均値を合わせて図3－3に示す。

表 3－6. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 基本統計量

設問1 (専門知識)						設問2 (倫理教養)					
学部	検査	放射	臨工	医経		学部	検査	放射	臨工	医経	
平均値	4.39	4.34	4.65	4.36	3.89	平均値	4.30	4.22	4.54	4.28	4.00
標準偏差	0.86	0.84	0.78	0.69	1.20	標準偏差	0.84	0.90	0.69	0.87	0.67
中央値	5	5	5	4	4	中央値	4	4	4.5	4	4
最大値	6	5	6	5	5	最大値	6	5	6	6	5
最小値	1	2	3	3	1	最小値	1	1	3	2	3
n	101	41	26	25	9	n	101	41	26	25	9
設問3 (科学行動)						設問4 (論理思考)					
学部	検査	放射	臨工	医経		学部	検査	放射	臨工	医経	
平均値	4.07	4.10	4.27	4.04	3.44	平均値	3.83	3.73	4.19	3.75	3.44
標準偏差	0.90	0.79	0.76	0.96	1.26	標準偏差	0.94	0.86	0.83	1.05	0.96
中央値	4	4	4	4	4	中央値	4	4	4	4	4
最大値	6	5	6	6	5	最大値	6	5	6	6	5
最小値	1	2	2	2	1	最小値	1	1	2	2	2
n	101	41	26	25	9	n	100	41	26	24	9
設問5 (生涯学習)						設問6 (責任感)					
学部	検査	放射	臨工	医経		学部	検査	放射	臨工	医経	
平均値	4.12	4.07	4.38	4.04	3.78	平均値	4.40	4.22	4.77	4.36	4.22
標準偏差	0.93	0.81	0.79	1.15	0.92	標準偏差	0.78	0.81	0.75	0.69	0.63
中央値	4	4	4	4	4	中央値	4	4	5	4	4
最大値	6	5	6	6	5	最大値	6	5	6	6	5
最小値	1	2	2	1	2	最小値	2	2	3	3	3
n	101	41	26	25	9	n	101	41	26	25	9
設問7 (専門技能)						設問8 (コミュカ)					
学部	検査	放射	臨工	医経		学部	検査	放射	臨工	医経	
平均値	4.20	4.15	4.42	4.16	3.89	平均値	4.37	4.27	4.62	4.28	4.33
標準偏差	0.94	0.98	0.84	0.78	1.29	標準偏差	0.95	1.04	0.79	1.00	0.67
中央値	4	4	4	4	4	中央値	4	5	5	4	4
最大値	6	6	6	6	5	最大値	6	6	6	6	5
最小値	1	2	3	3	1	最小値	2	2	3	2	3
n	101	41	26	25	9	n	101	41	26	25	9



医療科学部	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8
就職先施設評価 a	4.39	4.30	4.07	3.83	4.12	4.40	4.20	4.37
学生自己評価 b	4.82	4.89	4.63	4.38	4.68	4.81	4.64	4.83
差 a-b	-0.43	-0.59	-0.56	-0.55	-0.56	-0.41	-0.44	-0.47

図3-3. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 評定値の平均値

3-2-1) 学部全体としての分析

医療科学部の2019年度卒業生を対象とした、医療科学部ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価の平均値は8項目で大きな差はなく（平均値 4.21 ± 0.20 ）、最も評価が高かったのは「設問6：患者および地域住民の健康の維持・増進と健康障害からの回復に寄与するため、医療人として責任をもった行動をとることができるようになっていきますか。（責任感）」の 4.40 ± 0.78 であり、最も評価が低かった項目は「設問4：国際的視野に立ち、論理的な思考ができ、疑問を解決する行動をとることができるようになっていきますか。（論理思考）」の 3.83 ± 0.94 であった（表3-6）。また各設問の中央値は、「設問1：医療人としての専門分野の学修内容について知識を修得していますか。（専門知識）」が5（概ね修得できている）と最も高く、他の項目は4（最低水準は修得できている）であった。「4：最低水準は修得できている」以上の評価が最も多かったのは「設問6（責任感）」で90.1%（91/101件）がであり、次いで「設問2：人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけていきますか。（倫理教養）」89.1%（90/101件）、「設問1（専門知識）」であった（図3-2および表3-5）。一方、「設問4（論理思考）」は、他の設問と比べ「3：ある程度修得しているが、最低水準には届かない」より低い評価が28.0%（28/100件）と他の設問に比べ多かった。

学生自己評価調査と今回の就職先施設管理者による評価結果を比較すると、設問1～設問8の全てにおいて就職先管理者による評価は学生の自己評価に比べ、概ね0.50ポイント低かったことから、学生自己評価と就職先管理者による評価に大きな相違はないと考えられた（図3-3）。社会のニーズに対応した人材育成を目指し、これらの評価結果を踏まえて、今後の教育改善や学生指導を実施していくことが重要である。

3-2-2) 学科間の比較

医療科学部ディプロマ・ポリシーの8項目の設問について、回答された評定値の学科毎の分布を箱ひげ図で比較したグラフを図3-4に示す。設問ごとに回答された評定値の学科毎の割合を比較するグラフを図3-5に示す。

設問1～設問8において、各学科の評価値の中央値は4以上であった（表3-6）。すべての設問において、放射線学科の評価はその他の学科より高い結果を得た。臨床検査学科と臨床工学科の評価は近似しており学部全体の値とほぼ同程度であった。医療経営情報学科では回答施設数が少ないことが結果に少なからず影響していると思われるが、他の学科と比較して、若干低い傾向にあった。

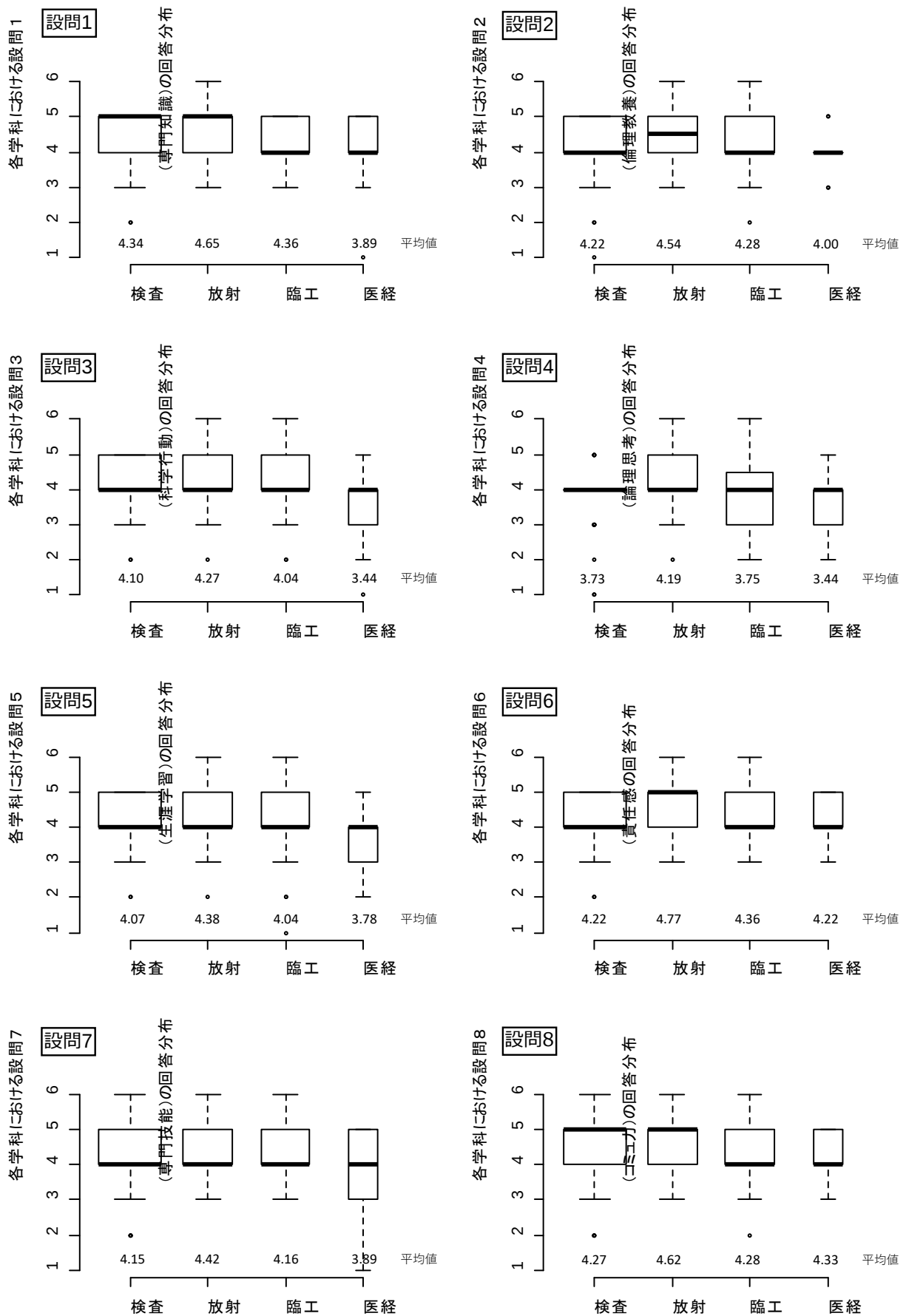


図3-4. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 学科毎の回答分布の比較

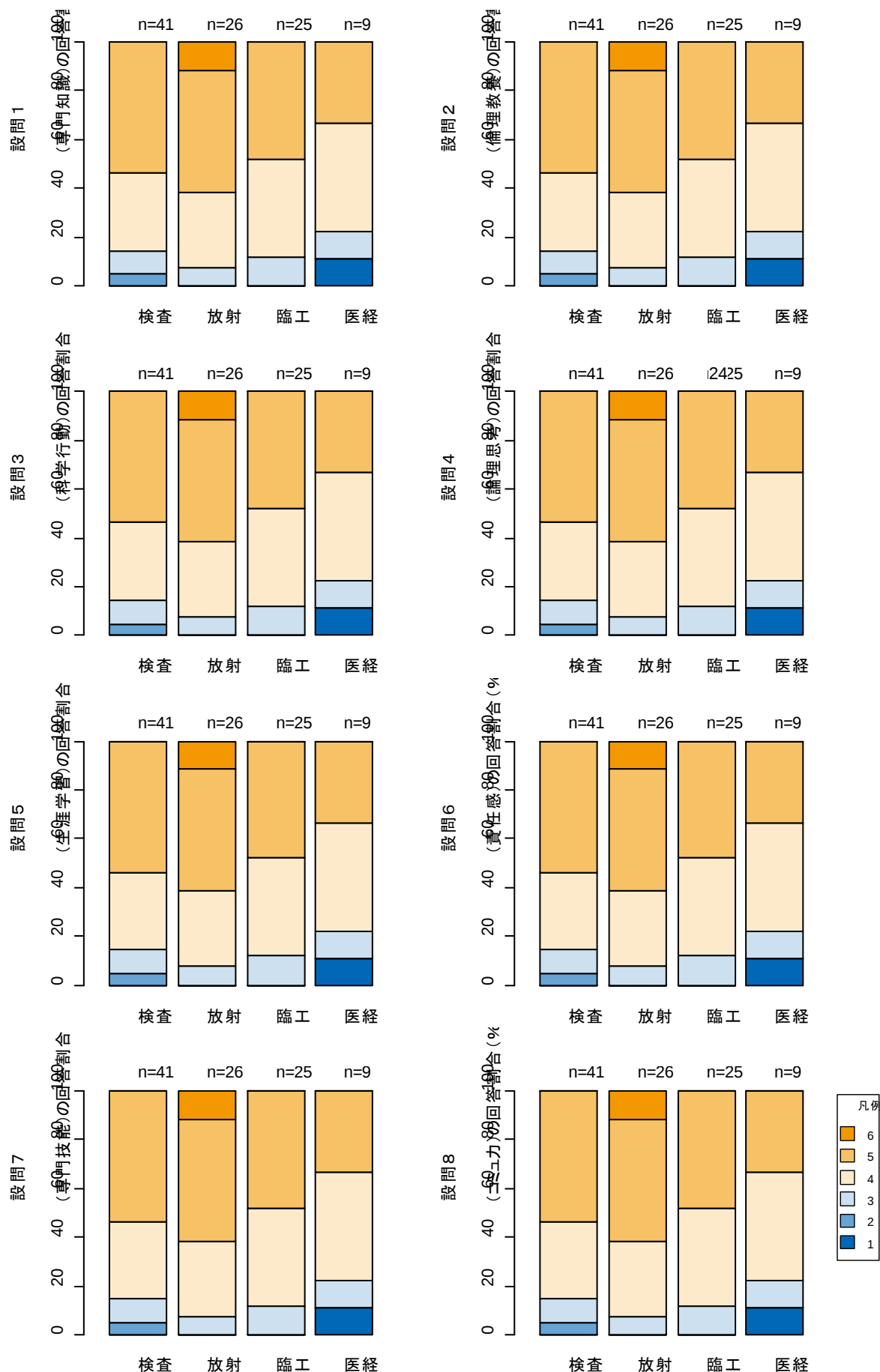


図3-5. 医療科学部ディプロマ・ポリシー到達度
就職先施設管理者評価結果 学科毎の回答割合(%)の比較

3-3) 各学科の調査結果および到達度の分析

医療科学部ディプロマ・ポリシーの8項目について、学科ごとに調査結果の概要と到達度の分析を示す。

3-3-1) 臨床検査学科

アンケート調査の設問1～設問8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図3-6に示す。設問1～設問8について、学部全体の回答の平均値と臨床検査学科の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における臨床検査学科の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図3-7に示す。

設問1～設問8の全てにおいて、学科の就職先施設評定の平均値は学部全体と同等の値であった。また、すべての設問において、学生の自己評価値は就職先施設評価値より高い傾向を示した。

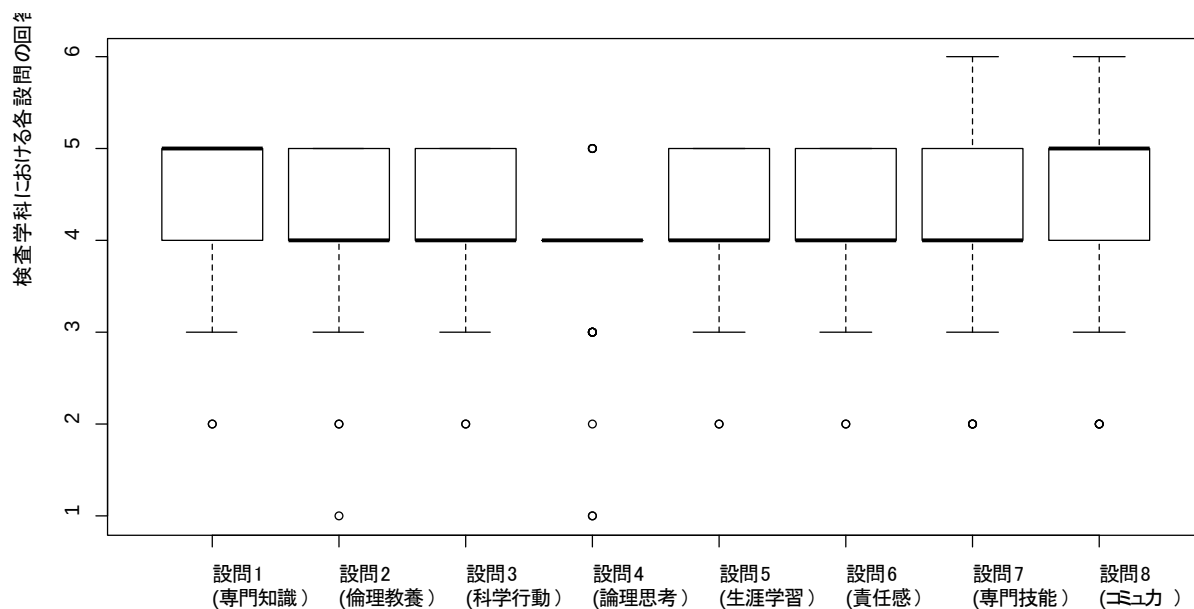


図3-6. 臨床検査学科の回答分布

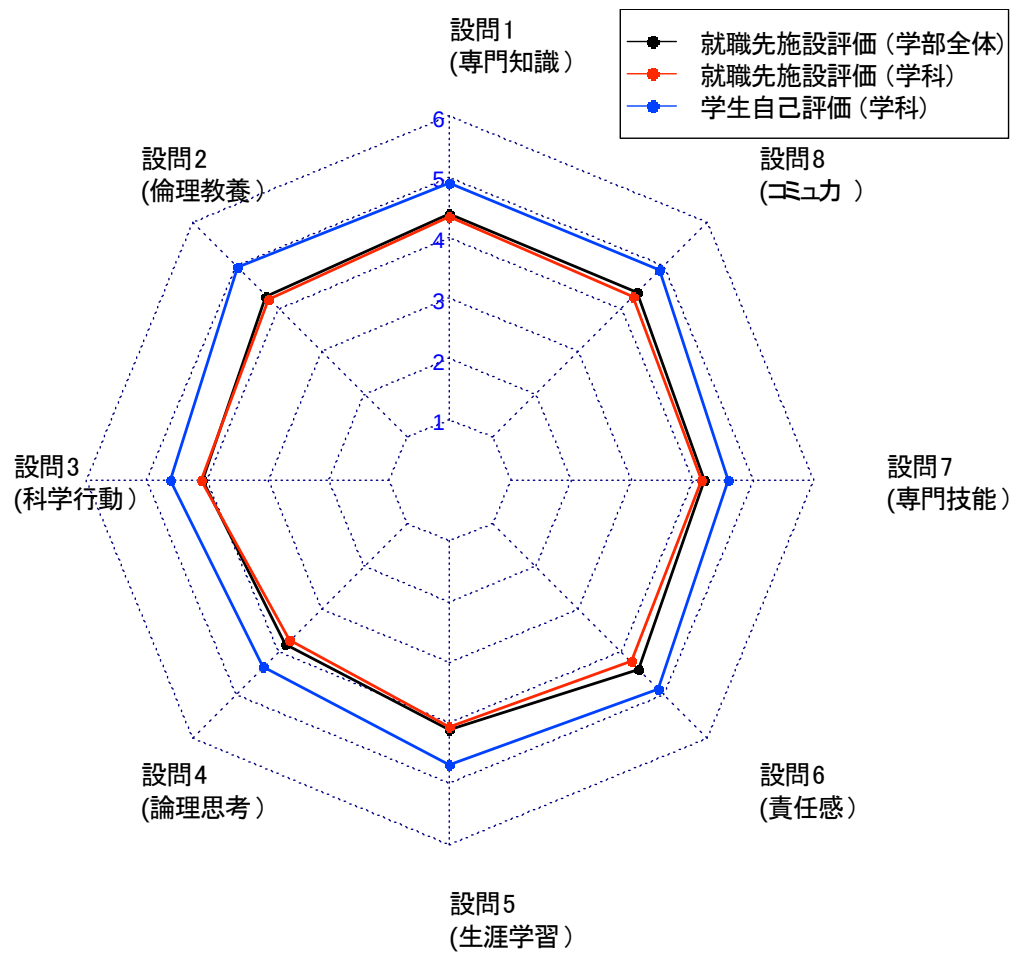


図3－7．回答結果の臨床検査学科と学部全体との比較（平均値）

3-3-2) 放射線学科

アンケート調査の設問1～設問8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図3-8に示す。設問1～設問8について、学部全体の回答の平均値と放射線学科の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における放射線学科の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図3-9に示す。

設問1～設問8の全てにおいて、学科の就職先施設評定の平均値は学部全体よりわずかに高い傾向を示した。また、学科の就職先施設評価値の平均値は自己評価値とほとんどの設問で同等の値であった。

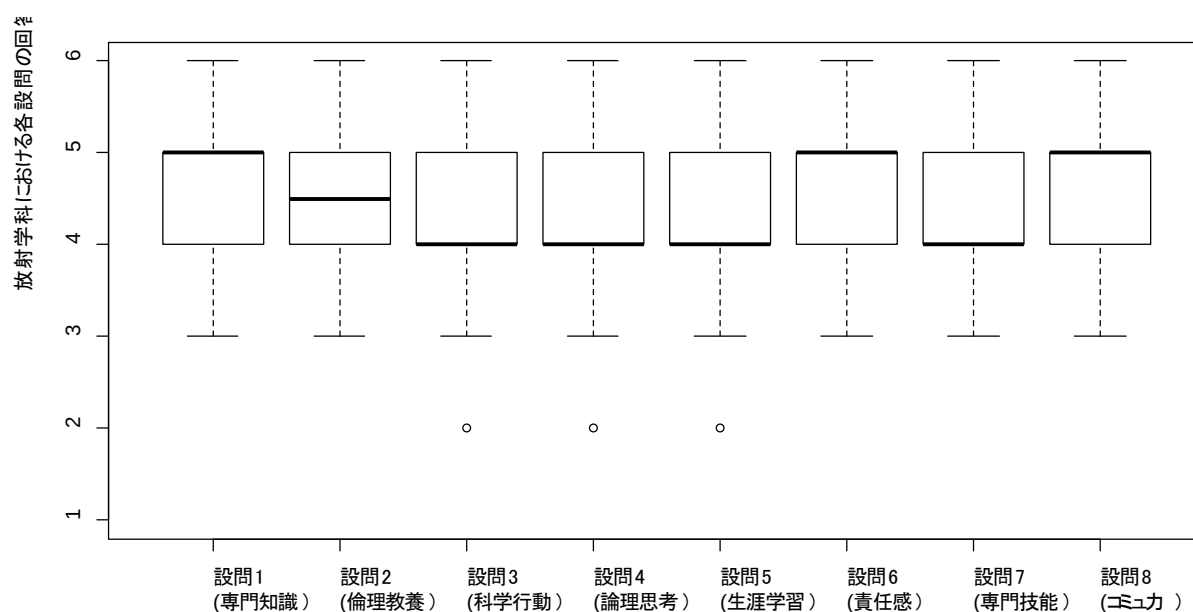


図3-8. 放射線学科の回答分布

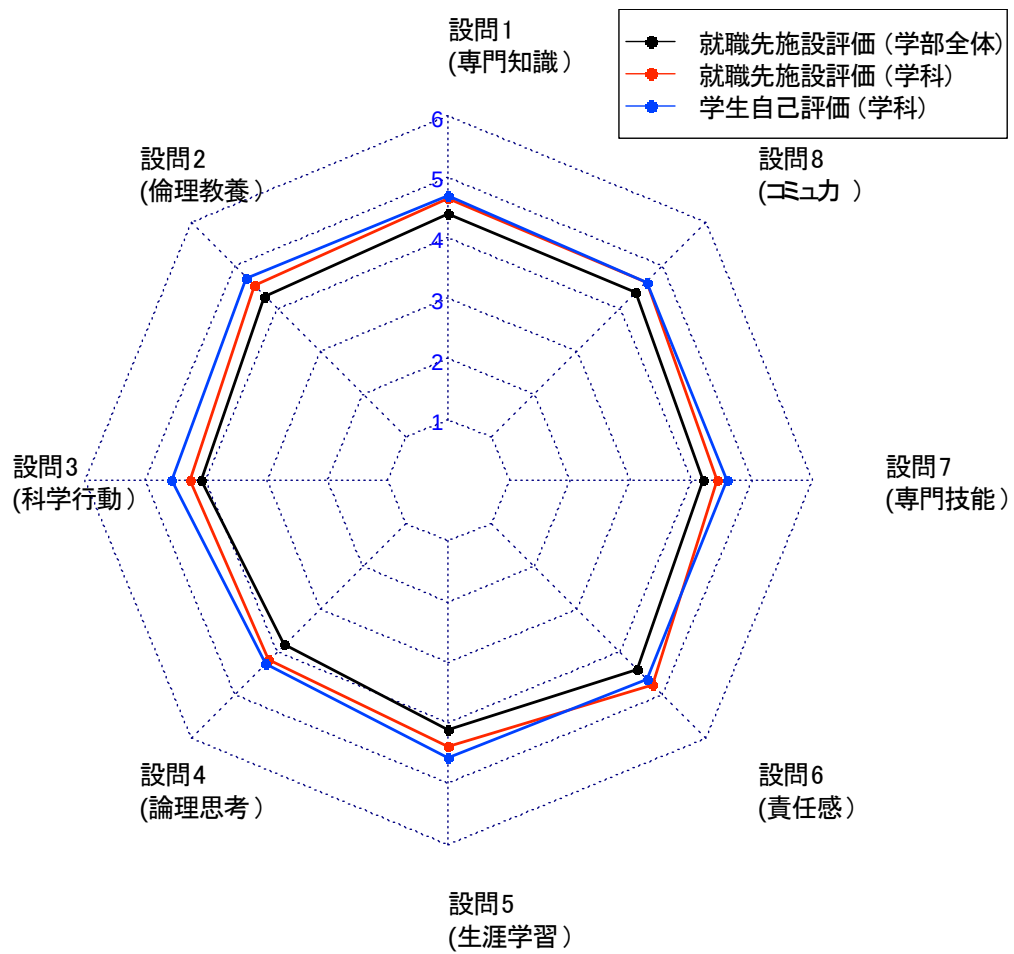


図 3 - 9. 回答結果の放射線学科と学部全体との比較 (平均値)

3-3-3) 臨床工学科

アンケート調査の設問1～設問8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図3-10に示す。設問1～設問8について、学部全体の回答の平均値と臨床工学科の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における臨床工学科の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図3-11に示す。

設問1～設問8の全てにおいて、学科の評定値の平均は学部全体とほぼ同じであった。全ての設問において、就職先施設評価値より自己評価値が約1ポイント高かった。回答分布では、論理思考の得点のばらつきが他の項目に比較して得点の低い方へ広がった。

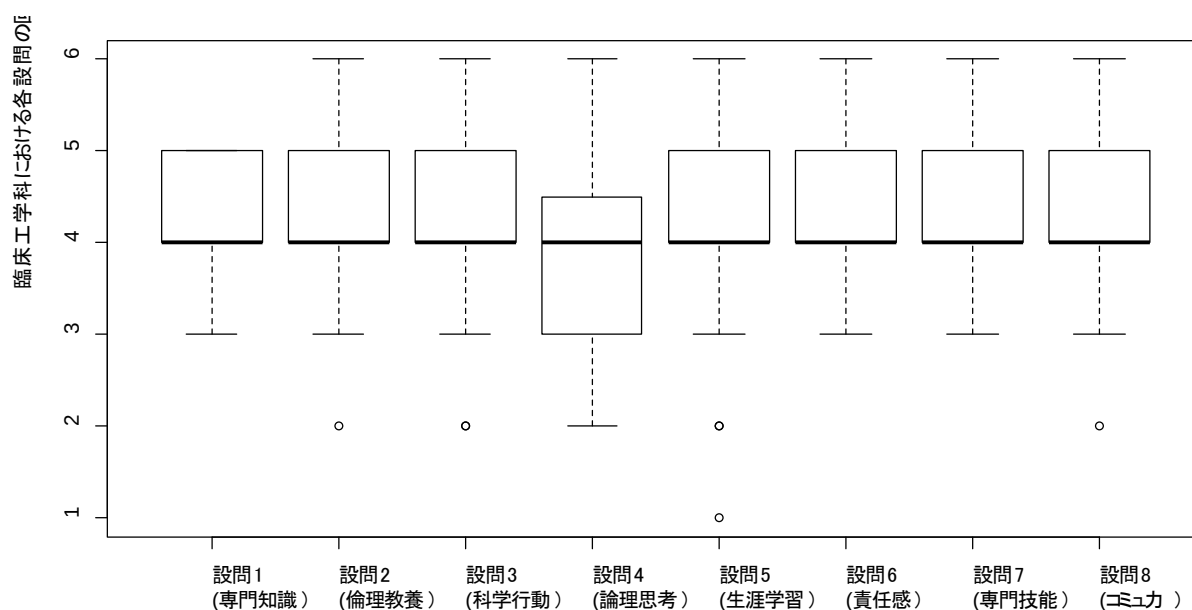


図3-10. 臨床工学科の回答分布

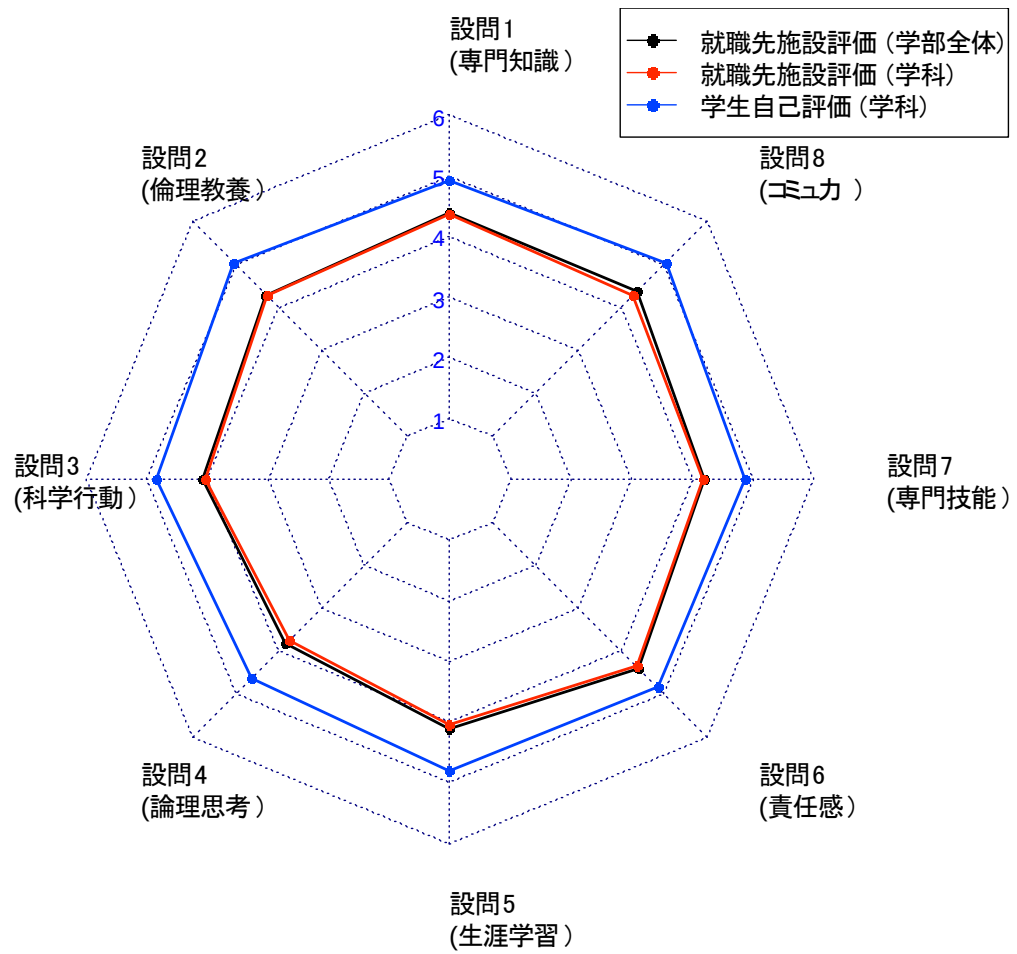


図 3 - 11. 回答結果の臨床工学科と学部全体との比較 (平均値)

3-3-4) 医療経営情報学科

アンケート調査の設問1～設問8に対する回答結果の分布を箱ひげ図にて図3-12に示す。設問1～設問8について、学部全体の回答の平均値と医療経営情報学科の回答の平均値、さらに学生自己評価調査における医療経営情報学科の各設問の回答の平均値を合わせて比較するレーダーチャートを図3-13に示す。

他学科では設問1～設問8について、学科の就職先施設評価の平均値は学部全体の平均とほぼ同じ値を示した。しかし、本学科の就職先施設評価は、設問1～設問7については学部全体よりも低い傾向を示した。設問8(コミュカ)については学部平均と同等の値であった。また、全ての設問において、就職先施設評価は学生自己評価よりもおよそ0.5～1ほど低い値となった。本学科卒業生は、科学的行動・専門知識・論理的思考については学部平均より低い評価となったが、コミュニケーション能力については学部平均並の評価を得た。

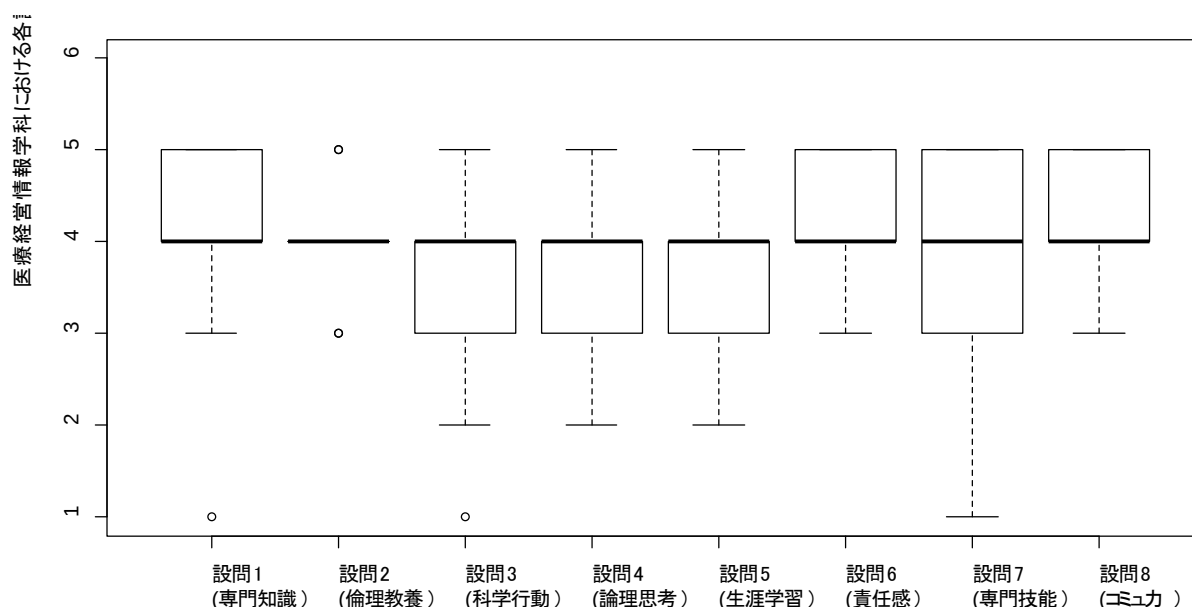


図3-12. 医療経営情報学科の回答分布

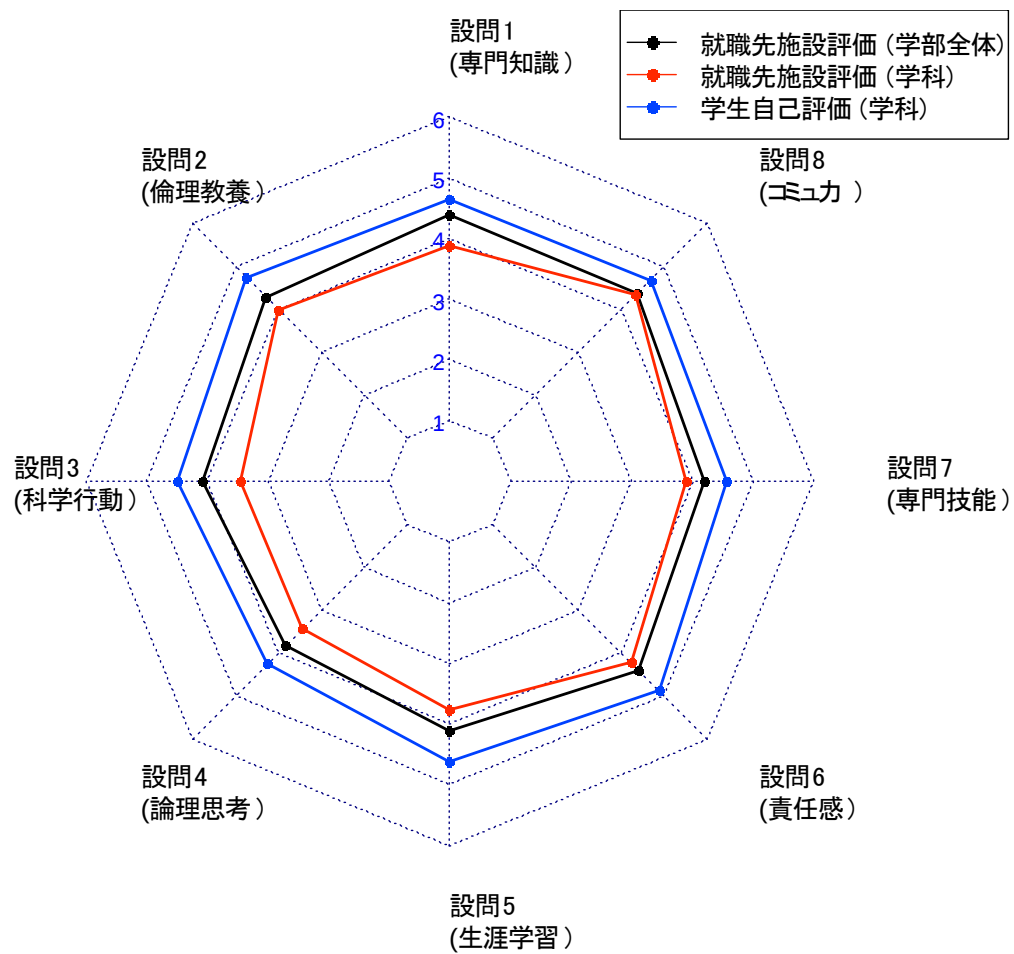


図3-13. 回答結果の医療経営情報学科と学部全体との比較（平均値）

4. 学科ディプロマ・ポリシーの到達度

4-1) アンケート調査方法

医療科学部の2019年度卒業生を対象として、各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度を、卒業生の就職先施設の管理者に評価して頂くアンケート調査を実施した。アンケート調査法はマークシート式の調査票へ記入する方式とし、学科ディプロマ・ポリシーの各項目を設問として、それに対する就業者(2019年度本学部卒業生)全体としての到達度を6段階で評価して頂いた。すなわち1施設あたり1評価結果であり、複数の卒業生が就業した施設では、各設問は複数人の平均評価として回答頂くように説明した。

アンケート調査の実施方法(時期、対象等)は、医療科学部ディプロマ・ポリシーの到達度調査と同様である(表3-1)。また、達成度の6段階の評定尺度も同様である(表3-3)。2019年度医療科学部卒業生を対象とした、各学科のディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、アンケート調査票の回収状況を表4-1に示す。

表4-1. アンケート調査票の回収状況(各学科ディプロマ・ポリシー)

学科	回収率	回収率 (昨年度)
臨床検査学科	64.5% (40/62 施設)	58.7%
放射線学科	56.5% (26/46 施設)	58.6%
臨床工学科	71.4% (25/35 施設)	65.0%
医療経営情報学科	57.1% (8/14 施設)	76.0%
計	63.1% (99/157 施設・部)	63.1%

4-2) 各学科の調査概要、調査結果および到達度の分析

4-2-1) 臨床検査学科

アンケート調査項目(臨床検査学科ディプロマ・ポリシー)を表4-2に示す。

2019年度臨床検査学科卒業生を対象とした臨床検査学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、設問1～設問7に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図4-1に示す。各設問に対する回答の割合を図4-2に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表4-3に示す。設問1～設問7について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図4-3に示す。

2019年度臨床検査学科卒業生の臨床検査学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評定平均値は、設問6以外は、「4:最低水準は修得できた」以上であった。

また、中央値が、すべての設問で「4：最低水準は修得できた」という結果や回答割合より、すべての設問で学科ディプロマ・ポリシーは最低限またはそれ以上達成できているという評価が過半数を占めていた。従って、最低限の学科ディプロマ・ポリシーは達成できていることが明らかとなった。特に、設問2（倫理責任）が最も平均値が高く、まじめに取り組む姿勢が評価されていると思われる。次いで、設問1（知識技能）、設問3（チーム医療）、設問4（地域貢献）および設問5（生涯学習）は「4：最低水準は修得できた」以上の回答割合が80%以上を占めていた。しかし、設問6（国際探求）および設問7（判断解決）に関しては「4：最低水準は修得できた」以上の回答割合が80%未満であり、物足りなさを感じている施設が若干多いと思われた。特に、設問6（国際探求）では、「1：全く修得できていない」と回答した施設もあった。就職先施設評価値と学生の自己評価値を比較すると、すべての設問で就職先施設評価値のほうが低い傾向にあり、最も差が大きかったものは設問7（判断解決）であった。従って、社会が求める水準について大学教育を通して学生に伝えていく必要があると考えられた。また今後、本学科学生に対して、研究的探求心、グローバルに活躍する意思や積極性、さらに様々な問題や課題の解決に向けた思考や判断能力を身に付ける教育基盤の強化やカリキュラムの改善が必要になると思われた。

表4－2. アンケート調査の設問項目（臨床検査学科ディプロマ・ポリシー）

設問1 (知識技能)	幅広い教養を身に付け、臨床検査を実践するために必要な知識と技能が身についていますか。
設問2 (倫理責任)	生命の尊さを深く認識し、医療人として高い倫理感と強い責任感を有し、謙虚で誠実に医療を実践することができるようになっていきますか。
設問3 (チーム医療)	医療職種の専門性および役割を理解し、チーム医療の一員としての自覚を有し、患者中心の専門職連携を実践することができるようになっていきますか。
設問4 (地域貢献)	地域医療の重要性を理解し、医学・臨床検査学を通じて地域社会と連携した医療・福祉を実践し、地域社会に貢献することができるようになっていきますか。
設問5 (生涯学習)	常に進歩し続ける医学・臨床検査に関心を有し、生涯にわたり自ら成長することができるようになっていきますか。
設問6 (国際探求)	研究的探究心を失うことなく、常に向上心をもち、グローバルに活躍する意志と積極性が身についていますか。
設問7 (判断解決)	科学的根拠に基づき、様々な医学・臨床検査学に関する問題や課題の解決に向けた思考や判断能力が身についていますか。

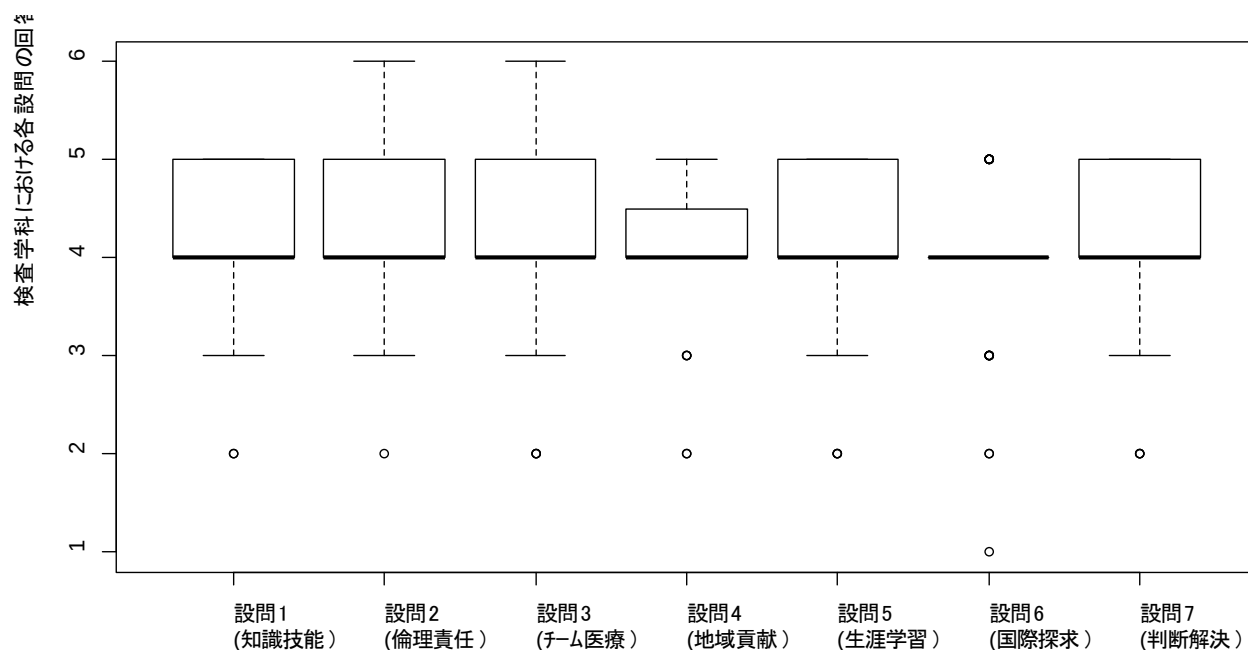


図4－1．臨床検査学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 回答分布

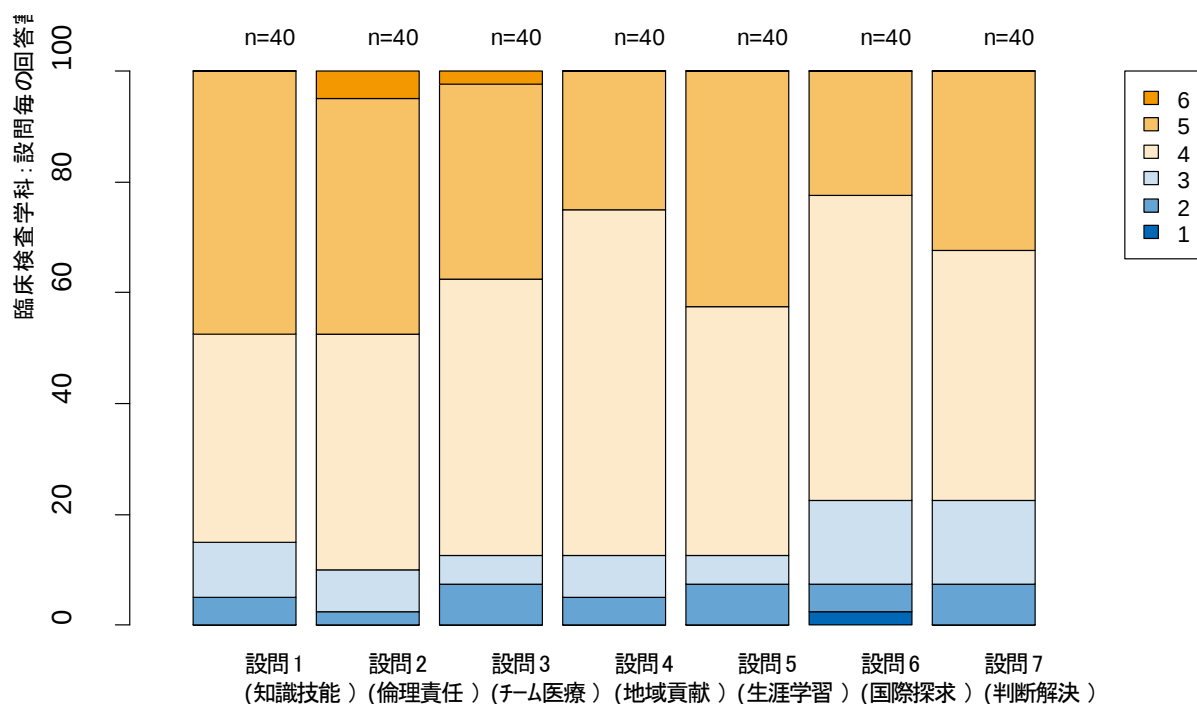
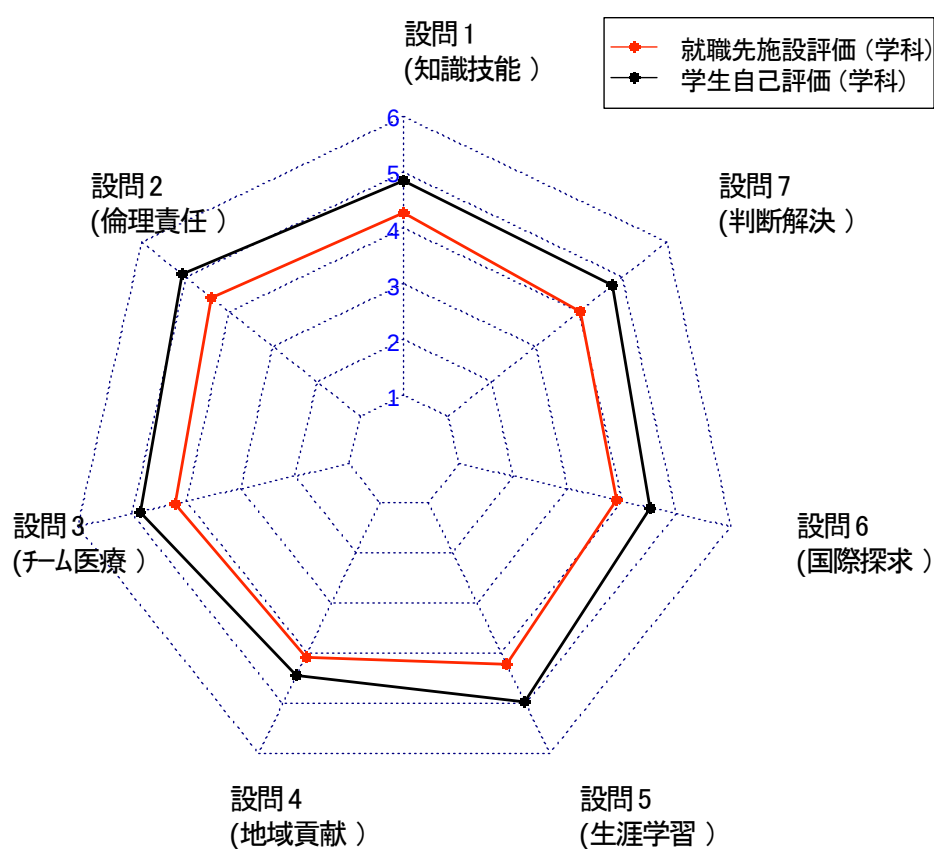


図4－2．臨床検査学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 設問毎の回答割合

表 4－3．臨床検査学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 基本統計量

検査	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7
平均値	4.28	4.40	4.20	4.08	4.23	3.90	4.03
標準偏差	0.84	0.80	0.87	0.72	0.85	0.89	0.88
中央値	4	4	4	4	4	4	4
最大値	5	6	6	5	5	5	5
最小値	2	2	2	2	2	1	2
n	40	40	40	40	40	40	40



検査	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7
就職先施設評価 a	4.28	4.40	4.20	4.08	4.23	3.90	4.03
学生自己評価 b	4.85	5.09	4.84	4.45	4.96	4.50	4.77
差 a-b	-0.57	-0.69	-0.64	-0.38	-0.73	-0.60	-0.74

図 4－3．臨床検査学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 評定値の平均値

4-2-2) 放射線学科

アンケート調査項目（放射線学科ディプロマ・ポリシー）を表4-4に示す。

2019 年度放射線学科卒業生を対象とした放射線学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、設問1～設問5に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図4-4に示す。各設問に対する回答の割合を図4-5に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表4-5に示す。設問1～設問5について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図4-6に示す。

2019 年度放射線学科卒業生の放射線学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評価は、表4-5の結果にて、すべての設問の中央値が「4：最低水準は修得できた」を示していることから、学科ディプロマ・ポリシーは最低限達成できている状況と判断できる。設問1（倫理礼節）については「5：概ね修得できた」～「6：完全に修得できた」の割合が約60%と他の設問よりも高く、倫理礼節を身につけていると評価されていることがわかる。設問2（チーム医療）、設問3（知能技能）、設問4（判断解決）、の回答は、「4：最低水準は修得できた」～「6：完全に修得できた」と評価した施設の割合に顕著な差は無い。設問5（国際探求）については、5～10%の施設が「1：全く修得できていない」～「2：十分に修得できていない」と回答している。少子化が加速しているにもかかわらず診療放射線技師育成校は増えている。就職先施設評価値と学生の自己評価値を比較すると、すべての設問で就職先施設評価値のほうが低い傾向にあり、最も差が大きかったものは設問5（国際探求）であった。今後は自ら考え判断する力やグローバル化に関する、資格取得以外の要素をさらに強化し、職場で輝く人材を育成していく必要がある。

表4-4. アンケート調査の設問項目（放射線学科ディプロマ・ポリシー）

設問1 (倫理態度)	医療専門職に相応しい倫理観や他者を思いやる心遣いや礼節を身につけていますか。
設問2 (チーム医療)	チーム医療の一員として他の医療専門職と協働して医療を担う責任感と協調性、優れたコミュニケーション能力を身につけていますか。
設問3 (知識技能)	診療放射線技師が担う診療画像検査業務および画像診断支援業務、放射線治療支援業務、放射線管理業務に幅広く対応できる高度な知識と技術が身につけていますか。
設問4 (判断解決)	診療放射線技術科学に関する論理的な課題解決思考をもち、卓越した専門性を発揮して放射線関連業務に携わることができるようになっていますか。
設問5 (国際探求)	医療科学における真理の探求心と創造力を兼ね備え、診療放射線技術学に関する国際的視野が身につけていますか。

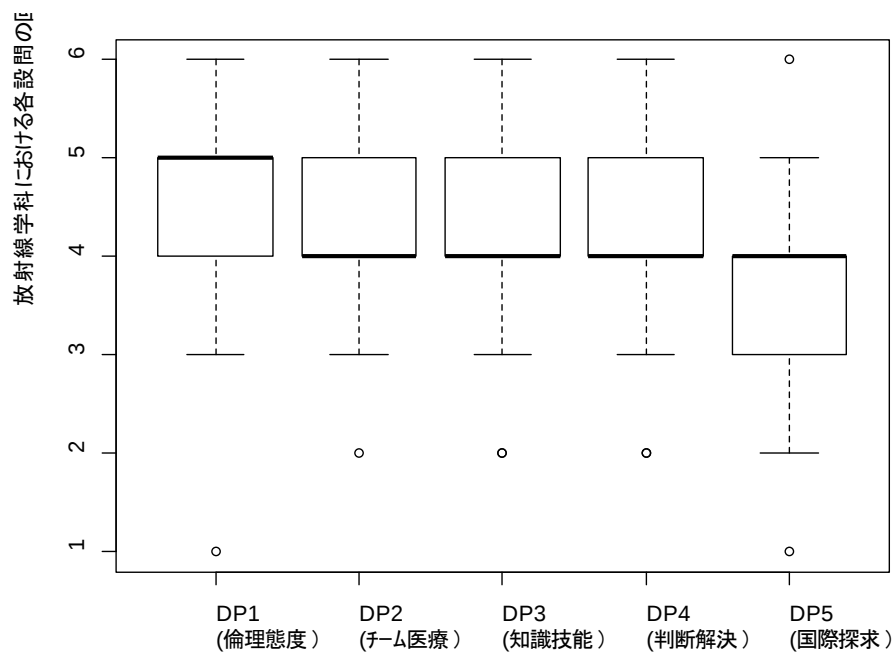


図 4－4．放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 回答分布

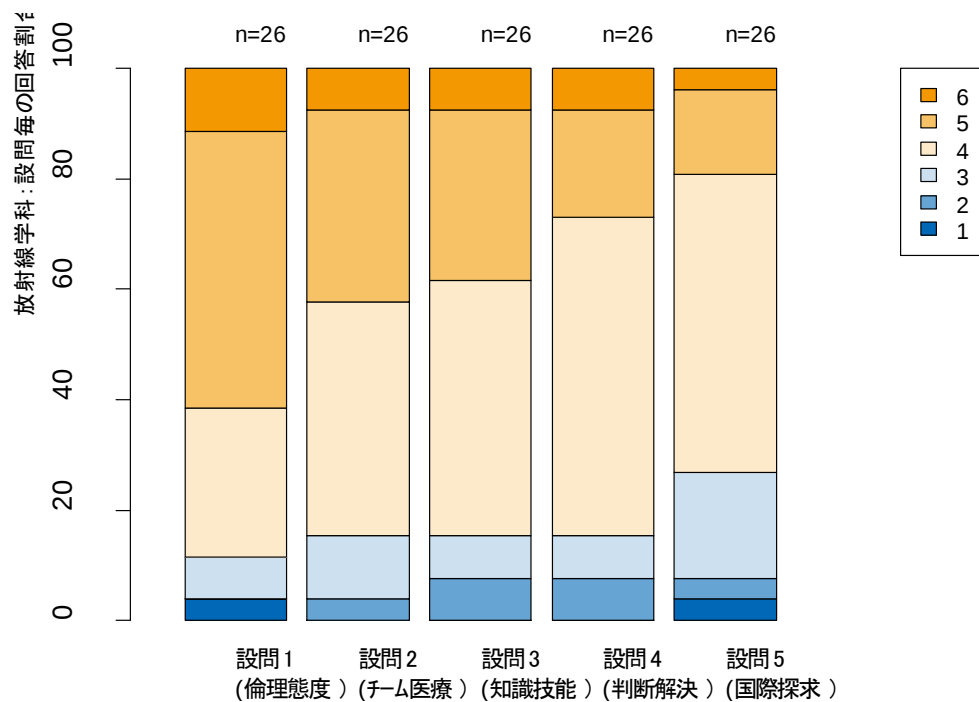
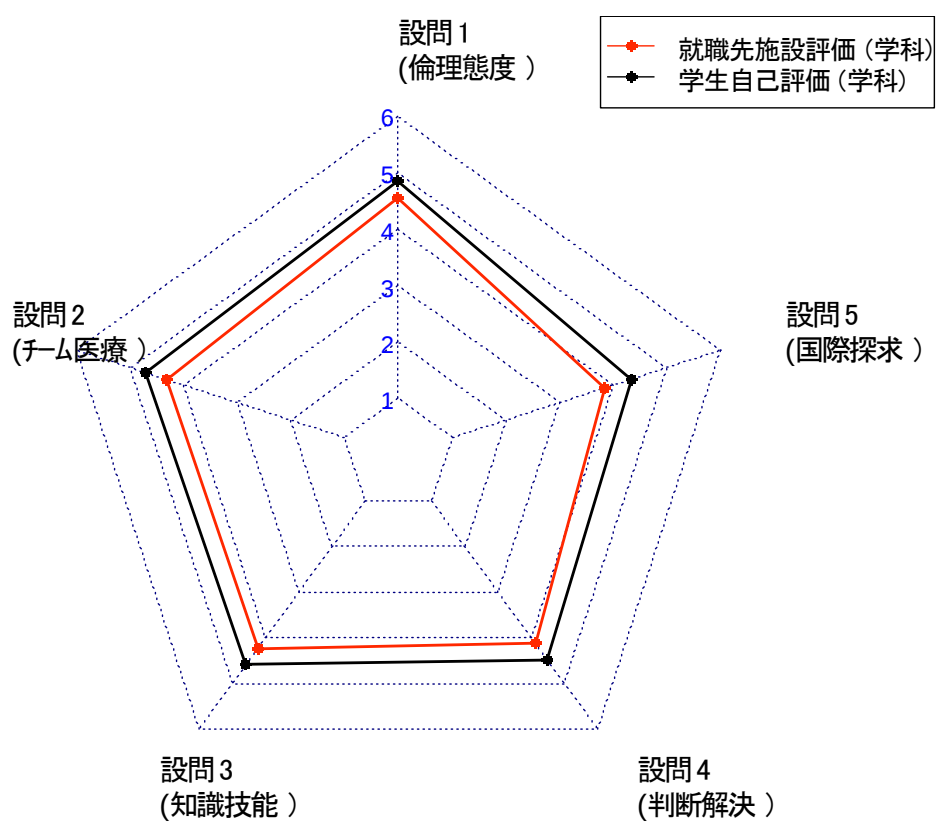


図 4－5．放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 設問毎の回答割合

表 4－5．放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 基本統計量

放射	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5
平均値	4.54	4.31	4.23	4.12	3.85
標準偏差	1.05	0.91	0.97	0.93	0.99
中央値	5	4	4	4	4
最大値	6	6	6	6	6
最小値	1	2	2	2	1
n	26	26	26	26	26



放射	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5
就職先施設評価 a	4.54	4.31	4.23	4.12	3.85
学生自己評価 b	4.84	4.70	4.59	4.48	4.35
差 a-b	-0.30	-0.39	-0.36	-0.36	-0.50

図 4－6．放射線学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 評定値の平均値

4-2-3) 臨床工学科

アンケート調査項目（臨床工学科ディプロマ・ポリシー）を表4-6に示す。

2019年度臨床工学科卒業生を対象とした臨床工学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、設問1～設問5に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図4-7に示す。各設問に対する回答の割合を図4-8に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表4-7に示す。設問1～設問5について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図4-9に示す。

2019年度臨床工学科卒業生の臨床工学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評価は、設問1～設問5のいずれも評定値の平均値はおおむね「4：最低水準は修得できた」であった。中央値は「4：最低水準は修得できた」～「5：概ね修得できた」を示し、学科ディプロマ・ポリシーは最低限達成できている状況であった。また、それぞれの評定値の平均値は、学生自己評価調査の平均値より約1ポイント低かった。設問1および設問2の臨床工学技士として必要な基礎知識、そして、安全な医療のための医学知識と工学知識の統合について、卒業生は修得できていると評価しているが、現場にとっては「4：最低水準は修得できた」と評価されている割合が他の項目に比較し高く、双方の間にギャップが認められており、教育内容のさらなる充実を検討し改善していく必要があると考える。設問3および設問4の回答は、就職先の評価平均値よりやや高いが、「4：最低水準は修得できた」の評価域であった。生涯学習やチーム医療は医療人としての基本的素養であるのでさらなる工夫が求められていると考える。また、就職先のニーズに十分に応えられるように、能動的な行動を養う工夫が必要と考える。

表4-6. アンケート調査の設問項目（臨床工学科ディプロマ・ポリシー）

設問1 (知識技能)	臨床工学技術領域に従事するための基本的な知識・技能が身につけていますか。
設問2 (医工統合)	安全な医療を行うために医学知識と工学知識を統合できていますか。
設問3 (生涯学習)	常に向上心を持ち生涯学び続ける事の大切さを理解できていますか。
設問4 (チーム医療)	高い倫理観を基盤とした豊かな人間性を身につけ、他の医療職と協働してチーム医療に貢献しようとする意思をもっていますか。
設問5 (地域貢献)	臨床工学技士に相応しい高い専門性と研究能力を備えようとするとともに医学の進歩と地域・社会福祉の向上に貢献しようとする姿勢ができていますか。

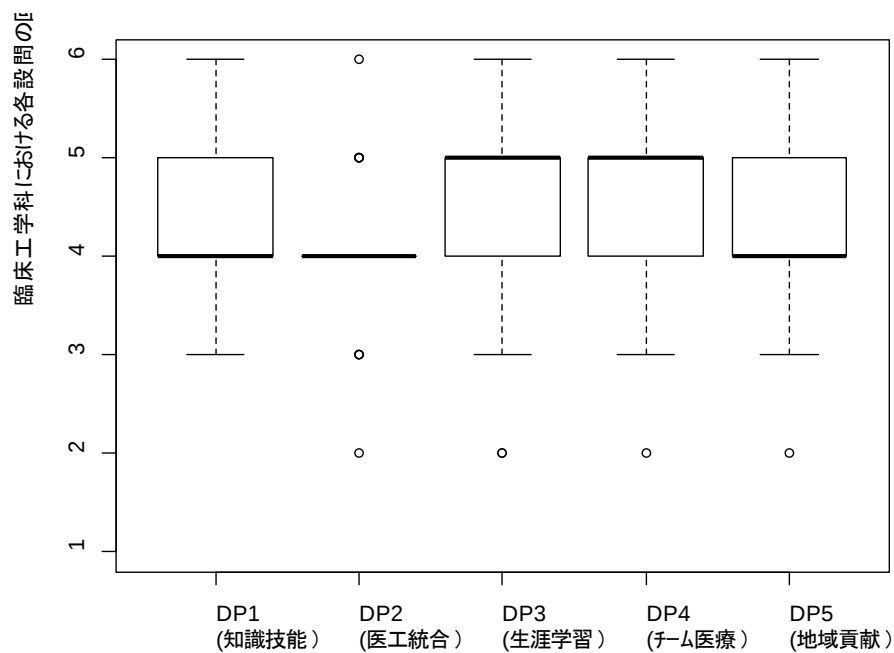


図 4-7. 臨床工学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 回答分布

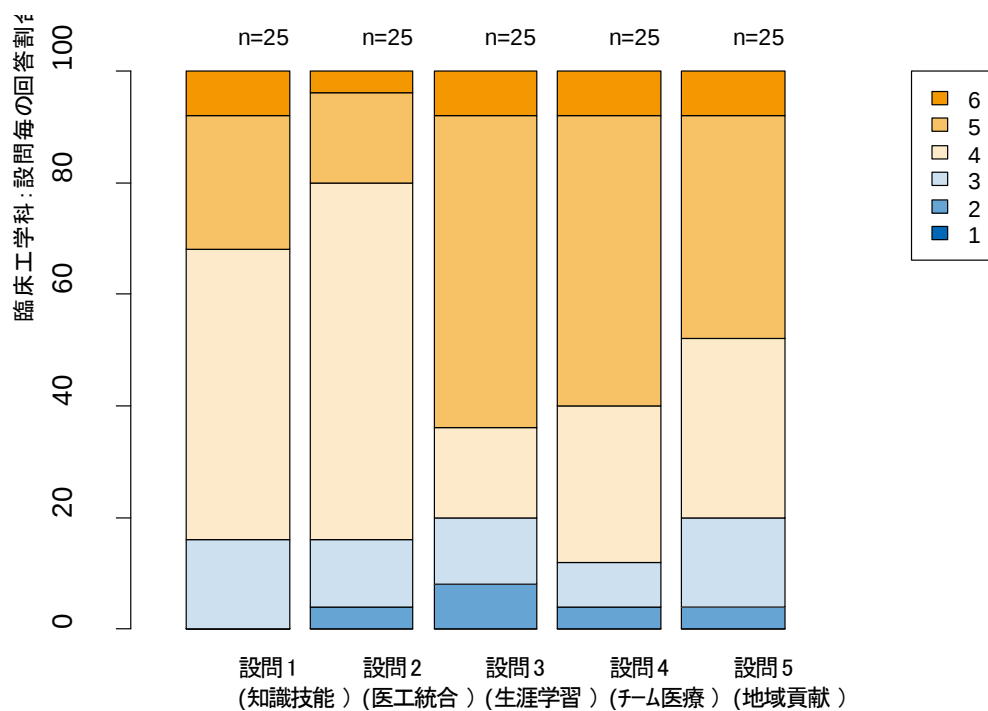
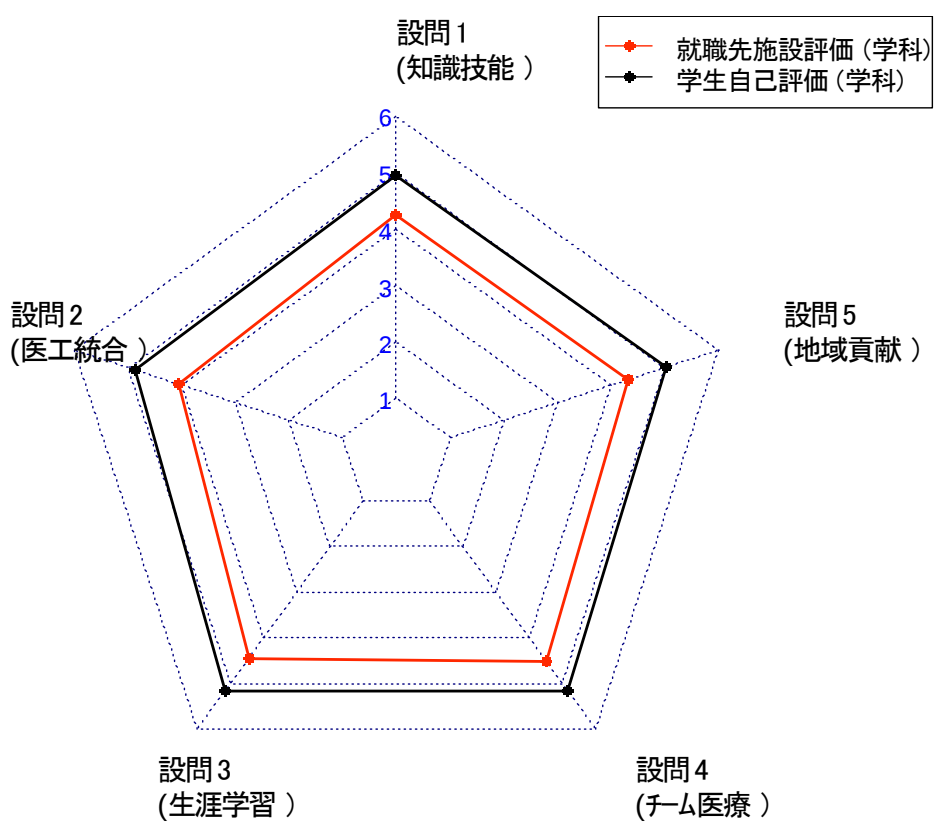


図 4-8. 臨床工学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 設問毎の回答割合

表 4－7．臨床工学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 基本統計量

臨工	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5
平均値	4.24	4.04	4.44	4.52	4.32
標準偏差	0.81	0.77	1.06	0.90	0.97
中央値	4	4	5	5	4
最大値	6	6	6	6	6
最小値	3	2	2	2	2
n	25	25	25	25	25



臨工	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5
就職先施設評価 a	4.24	4.04	4.44	4.52	4.32
学生自己評価 b	4.94	4.85	5.15	5.17	5.02
差 a-b	-0.70	-0.81	-0.71	-0.65	-0.70

図 4－9．臨床工学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 評定値の平均値

4-2-4) 医療経営情報学科

アンケート調査項目（医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー）を表4-8に示す。

2019 年度医療経営情報学科卒業生を対象とした医療経営情報学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度の就職先施設管理者による評価について、設問1～設問8に対する評価値の分布を箱ひげ図にて図4-10に示す。各設問に対する回答の割合を図4-11に示す。

アンケート回答結果について、簡便に6段階の評定尺度を等間隔の間隔尺度とみなし比較を行った。回答結果について、設問ごとの平均値、標準偏差、中央値、最大値、最小値を表4-9に示す。設問1～設問8について、回答された評定値の平均値および学生自己評価調査における各設問の回答の平均値を合わせてレーダーチャートとして図4-12に示す。

2019 年度医療経営情報学科4年の医療経営情報学科ディプロマ・ポリシーに対する就職先施設管理者による評価は、各設問とも就職先施設管理者より「4:最低水準は修得できた」以上の評価を得ており、現行カリキュラムによって、医療事務系従事者としての要求に答える人材育成ができていることが確認できた。設問5（診療管理）、設問6（医療情報）は、他の設問に比べ高い評価（中央値は「5:概ね修得できた」）を得た。2019 年度4年生は全員が診療情報管理士認定試験に合格しており、これを反映する結果と考えられる。終章先施設評価が低くなったのは、設問7（経営管理）・設問1（分析管理）・設問2（チーム医療）であり、評価の平均値は3.5以下となった。設問7（経営管理）、設問2（チーム医療）については入職後に経験を積むことによってスキルアップする類の項目であり、低評価となっていることが考えられる。設問1（分析管理）については、施設側の期待の高さに対し学生に身につけているスキルの低さが原因と考えられ、統計やデータ分析の教育により一層注力すべきである。

就職先施設管理者による評価と学生自己評価を比較すると、設問2（チーム医療）・設問7（経営管理）・設問1（分析管理）・設問4（診療報酬）において学生の自己評価よりおよそ1.2～0.8ポイント低い値を示しており、学生が身につけていると思っている以上に施設側は身につけていないと厳しく評価していた。また、設問6（医療情報）の学生自己評価は他の設問に比べ最も低かったが、就職先施設からの評価としては4.00と高評価であり、学生自己評価と就職先施設評価との差がもっとも少なかった。本学科の医療情報教育が医療現場より評価された結果と考えられる。一方、設問7（経営管理）の評価の平均値は3.13と就職先施設管理者から最も低く評価された。自己評価との差も約1.2ポイントと大きく、医療現場で求められる経営管理の知識レベルに対応すべく、教育内容の改善を継続していく必要がある。

表 4－8．アンケート調査の設問項目（医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー）

設問 1 (分析管理)	医療の質向上に貢献することができる情報分析能力やマネジメント能力が身についていますか。
設問 2 (チーム医療)	医療人としてふさわしい高い倫理観を身につけ、チーム医療の一員として問題解決にあたるためのコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力が身についていますか。
設問 3 (生涯学習)	社会の変化や医療の進歩に対応して自らの専門性を発揮できるよう生涯学習を続ける意欲が身についていますか。
設問 4 (診療報酬)	診療報酬請求事務に関する知識と基礎的能力が身についていますか。
設問 5 (診療管理)	診療情報管理士認定試験に合格できる知識と技能の水準に達していますか。
設問 6 (医療情報)	医療情報技師能力検定試験に合格できる知識と技能の水準に達していますか。
設問 7 (経営管理)	経営・管理に関する知識を医療に応用する基礎的能力が身についていますか。

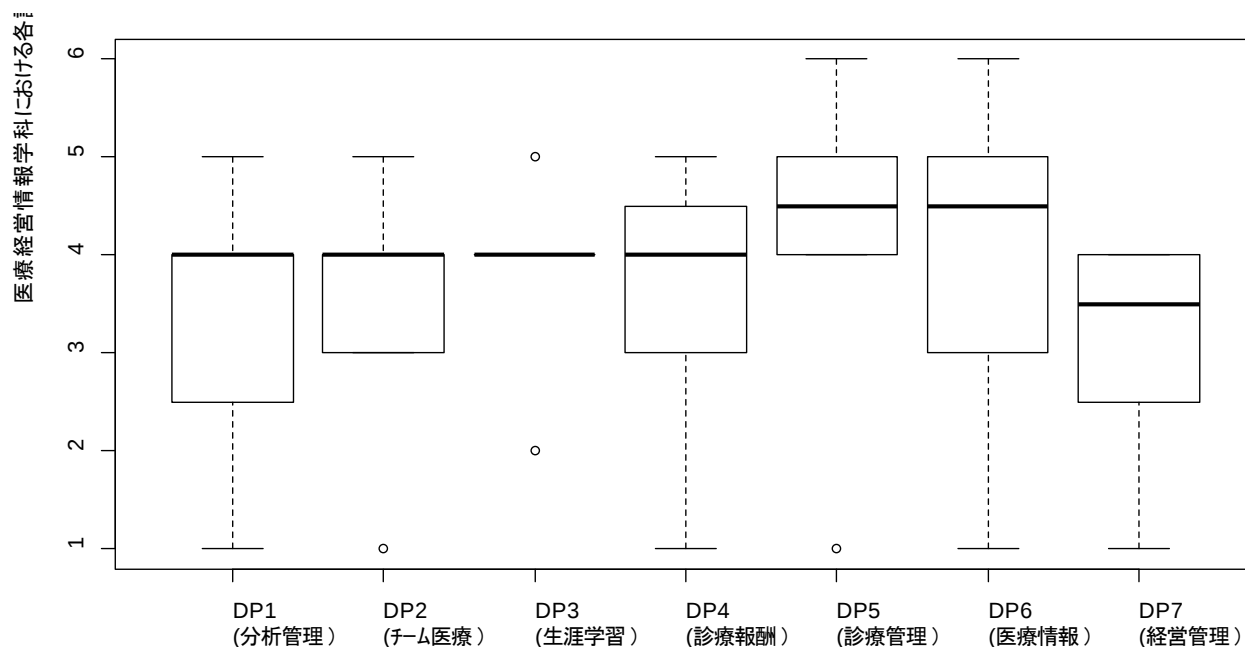


図 4－10. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 回答分布

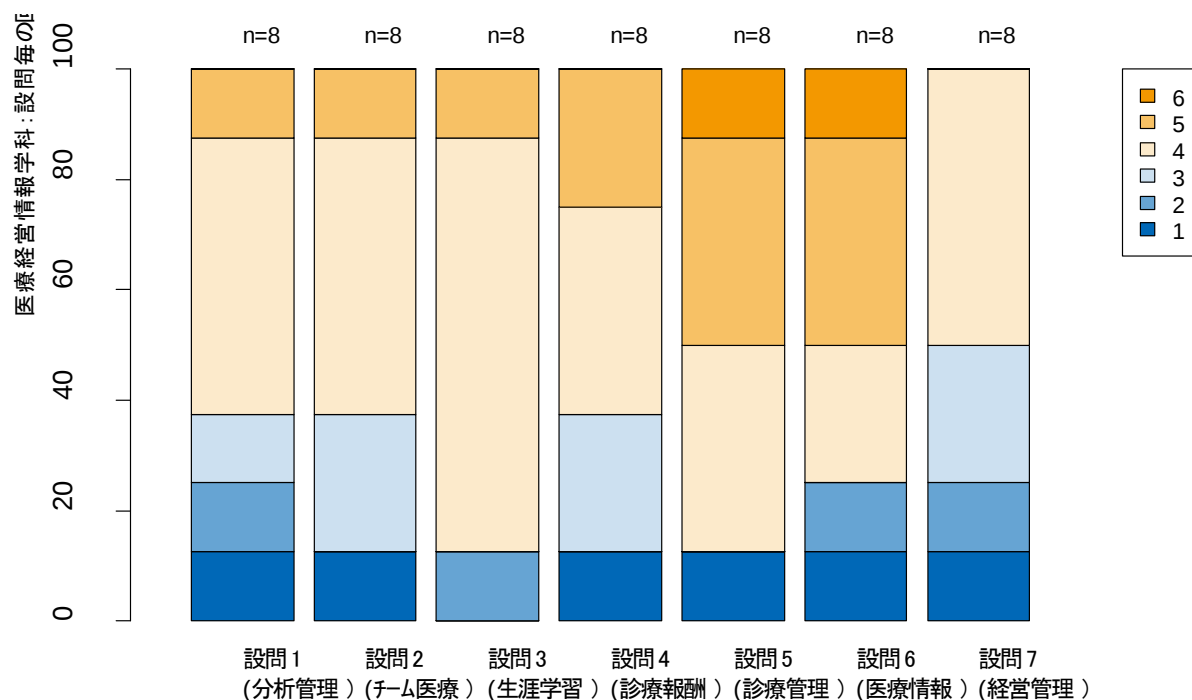


図4－11. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 設問毎の回答割合

表4－9. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 基本統計量

医経	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7
平均値	3.38	3.50	3.88	3.63	4.25	4.00	3.13
標準偏差	1.22	1.12	0.78	1.22	1.39	1.58	1.05
中央値	4	4	4	4	5	5	4
最大値	5	5	5	5	6	6	4
最小値	1	1	2	1	1	1	1
n	8	8	8	8	8	8	8

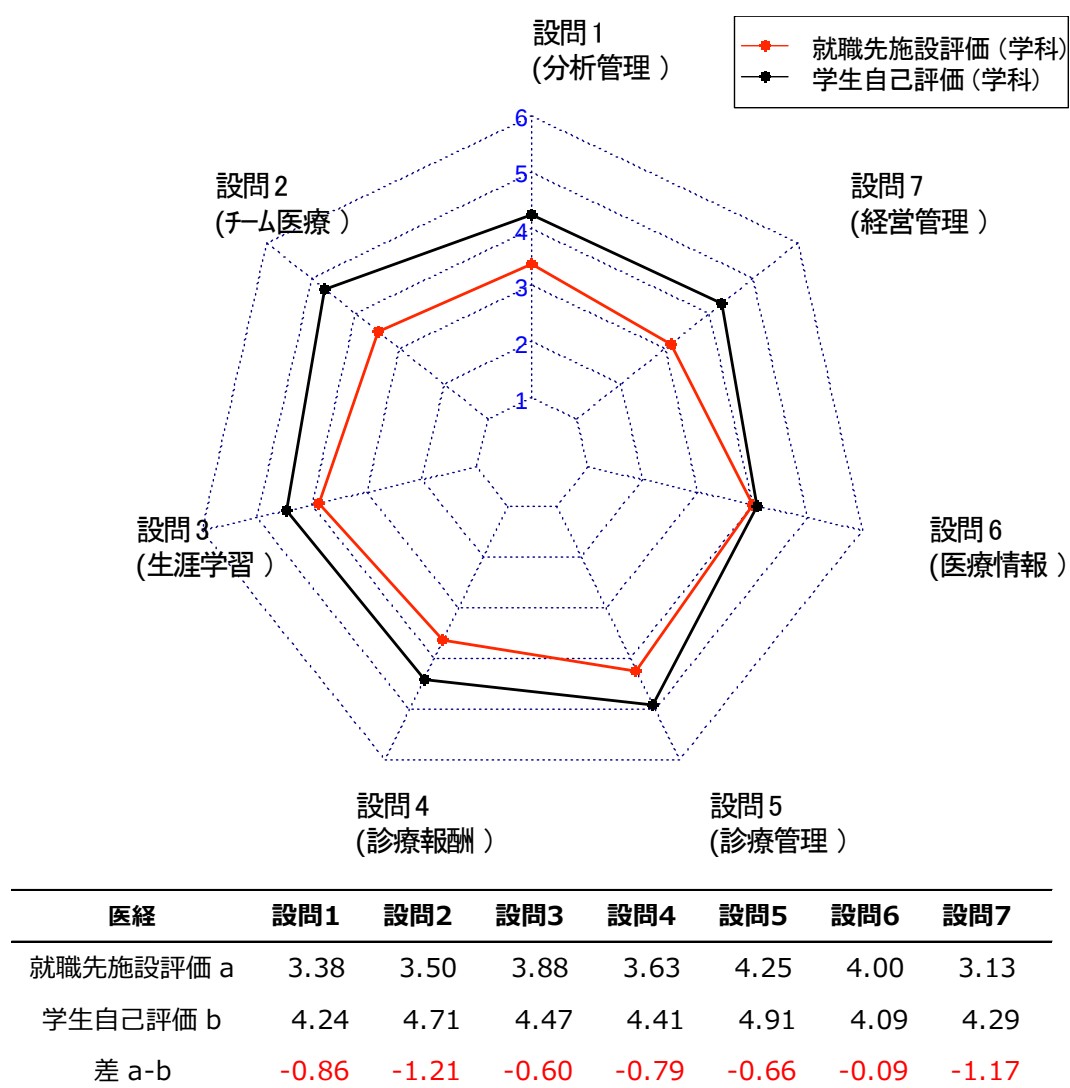


図 4 - 12. 医療経営情報学科ディプロマ・ポリシー到達度就職先施設評価結果 評定値の平均値

5. 参考資料

2019 年度医療科学部卒業生の就職先施設に対し、検査・放射・臨工・医経の各学科は図 5-1 の依頼文を送付し、医療科学部ディプロマ・ポリシーおよび各学科ディプロマ・ポリシーに対する到達度をアンケート調査した。

2020 年 8 月吉日	
●●●●●●病院 採用ご担当者様	藤田医科大学 医療科学部 学 部 長 齋藤 邦明 IR 推進センター長 橋本 修二
医療科学部卒業生に関する到達度アンケート ディプロマポリシーに関する調査のお願い（依頼書）	
平素は本学の教育に関しまして格別なるご理解とご指導を賜り、深くお礼申し上げます。さて、本年度までに貴院でご採用頂きました本学の医療科学部卒業生（臨床検査学科、放射線学科、臨床工学科、医療経営情報学科）を対象とした調査を実施したく、ご協力をお願い致します。本調査は、在学中の医療科学部及び学科別の教育理念（ディプロマ・ポリシー）について、これらの素養が貴院に採用いただいた卒業生にどの程度身についているか、就職先である各施設側より評価をしていただくものです。既に、卒業生は卒業時に 4 年間を振り返り、ディプロマ・ポリシーの自己評価を終えております。卒業後数箇月～数年経過したこの時点で、本学卒業生のディプロマ・ポリシー到達度を評価して頂きたく、お願い申し上げます。評価につきましては、配属先の上長にご回答いただきますようお願い申し上げます。この調査は、文部科学省が進める私立大学改革総合支援事業に沿って実施するものです。業務多忙な中お手数をおかけ致しますが、ご協力賜りますようお願い致します。	
－ 記 －	
調査内容：本学卒業学生の就職先施設によるディプロマ・ポリシー到達度評価調査 回答期間：本書到着日 ～ 2020 年 9 月 30 日（水） 調査対象：2020 年 4 月採用～入社 3 年目相当の本学卒業生 同一学科（同一職種）で、複数の学生をご採用頂いている場合は、全体的な評価をお願い致します。 調査方法：調査対象について、配属先の上長による調査票への回答	
以 上	
同封書類：	
1. 医療科学部 ディプロマ・ポリシー アンケート用紙：1 通 2. 学科別 ディプロマ・ポリシー アンケート用紙：1 通 3. 返信用封筒：1 通	
お問い合わせ窓口： 藤田医科大学 事務局 総務部 学生支援課 キャリア支援担当 (TEL 0562-93-9864, FAX 0562-93-7211)	

図 5-1. 卒業生就職先施設へのディプロマ・ポリシー到達度アンケート調査の依頼文
(臨床検査学科・放射線学科・臨床工学科・医療経営情報学科)